

第二部 調査の分析結果

I. 調査対象者のプロフィール

(1) 性別 (問1)

性別について、男性は全体の 52.2%、女性は 47.4%であった。高年および高齢者というサンプル(母集団)の特性からみると、本調査の回答者はやや男性に偏っている、あるいは男性の割合が高いといえる。

表1 性別

	度数	パーセント
男性	559	52.2
女性	509	47.4
無回答	3	0.3
合 計	1071	100.0

(2) 年齢 (問2)

回答者の年齢区分をみると、50歳代(55-59歳)が21.2%、60歳代(60-69歳)が45.7%、70歳代(70-79歳)が32.4%である。60歳代の割合が高い。これを、政策課題の分析に合わせて、中高年層、(65歳未満)、前期高齢者(65-74歳)、後期高齢者(75歳以上)に分類してみると、それぞれ、48.3%、35.9%、15.8%で、高齢前層(中高年層)の割合がかなり高く、ついで前期高齢層となっており、この2つを合わせると、84.2%に達しており、かたよりがみられるが、「社会参加」というテーマから考えると、(積極的な)社会参加そのものは、むしろ高齢期以前からの流れで見えていくのが妥当と考えられるので、とりたてて問題はないと思われる。

性別でみると、年齢構成はほぼ同じで、男女差が全く見られない。

表2 性別年齢三区分別構成

				合計
	55～64歳	65～74歳	75歳以上	
男性	271	205	83	559
	48.5%	36.7%	14.8%	100.0%
女性	246	180	83	509
	48.3%	35.4%	16.3%	100.0%
無回答	0	0	3	3
			100.0%	100.0%
合計	517	385	169	1071
	48.3%	35.9%	15.8%	100.0%

(3) 最終学歴（問3）

最終学歴が義務教育課程である人の割合は30.2%、旧制中学を含む高等学校等が48.0%、旧制高校を含む大学等が20.1%であった。「高卒」の学歴を超える「大学等」も2割程度あるが、やはり、義務教育課程の30%は、回答者の平均年齢を仮に65歳と考えると、やや低い（教育水準が高い）傾向にあるといえる。サンプルにしめる盛岡市・一関市のしめる割合が67.2%と高いことも理由の一つになっている。しかし、年齢別にみると、「義務教育」は64歳以下19%、65～74歳37.4%、75歳以上47.3%であるのに対して、「大学等」は、それぞれ、30.0%、12.2%、7.7%で、年齢差が顕著であることがわかる。年齢層が低くなる（若くなる）に従い「高等教育機関」（「大学等」）の割合が高くなっている。大学等は、僅かに女性で高いが最終学歴に男女間の差は見られない。これら、年齢、性別の学歴が「義務教育」である人の割合を、岩手県全体のものとして示したのが、表の右端である。（2005年国勢調査のデータ：性別のデータは55歳以上の平均）やはり、明らかに本調査の対象者は学歴が高いことがわかる。

表3 性別 最終学歴（問3）

	義務教育課程	高等学校等	大学等	その他	無回答	合計	岩手県・義務教育終了
男性	166 29.7%	267 47.8%	121 21.6%	0	5 .9%	559 100.0%	42.3%
女性	157 30.8%	247 48.5%	94 18.5%	1 .2%	10 2.0%	509 100.0%	47.5%
無回答	0	0	0	0	3 100.0%	3 100.0%	
合計	323 30.2%	514 48.0%	215 20.1%	1 .1%	18 1.7%	1071 100.0%	45.0%

表4 年齢 最終学歴（問3）

	義務教育課程	高等学校等	大学等	その他	無回答	合計	岩手県・義務教育終了
55～64歳	99 19.1%	258 49.9%	155 30.0%	1 .2%	4 .8%	517 100.0%	29.8%
65～74歳	144 37.4%	191 49.6%	47 12.2%	0	3 .8%	385 100.0%	52.3%
75歳以上	80 47.3%	65 38.5%	13 7.7%	0	11 6.5%	169 100.0%	64.8%
合計	323 30.2%	514 48.0%	215 20.1%	1 .1%	18 1.7%	1071 100.0%	45.0%

Ⅱ.暮らしぶり

(1) 居住年数（問5）

まず地域での人間関係や、地域への愛着度・帰属意識、地域での共同行動への参加状況など、コミュニティにかかわる要因に影響を持つと考えられる居住年数（定着度）についてみる。

回答者の居住年数をみると、40年以上が最も多く全体の6割を占める。次いで多いのが30年以上40年未満（15.3%）で、30年以上で4分の3を占めている。それだけ、移動が少なく地域に根付いているということである。これは大きな特徴といえる。他選択肢は1割ほどもしくは1割にも満たない。

「5年未満」「5年以上10年未満」「20年以上30年未満」においては、性別による差はみられない。「30年以上40年未満」となると、女性の方が、6.0ポイント割合が高く、「40年以上」となると、7.4ポイントと逆に男性の方が割合として高い状況にある。この違いには、男性の場合は、「生まれてからずっと」という状況が、女性の場合は「嫁いでからずっと」といった状況が反映していると考えられる。

年齢別にみると、当然のことながら年齢が上がるにつれて、居住年数が上がる傾向にある。いずれにしても、居住年数が極めて長いということが、大きな特徴となっており、そのことが、高齢者の社会参加の実態をどう評価するかということと、今後の促進のあり方を考える上で、重要なポイントの一つとなるといえる。

表5 性別 居住年数

	居住年数							合計
	5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 20年未満	20年以上 30年未満	30年以上 40年未満	40年以上	不明	
男性	17 3.0%	14 2.5%	41 7.3%	53 9.5%	70 12.5%	361 64.6%	3 .5%	559 100.0%
女性	14 2.8%	12 2.4%	40 7.9%	55 10.8%	94 18.5%	291 57.2%	3 .6%	509 100.0%
不明	0	0	0	0	0	0	3 100.0%	3 100.0%
合計	31 2.9%	26 2.4%	81 7.6%	108 10.1%	164 15.3%	652 60.9%	9 .8%	1071 100.0%

表6 年齢別 居住年数

	居住年数							合計
	5 年未満	5 年以上 10 年未満	10 年以上 20 年未満	20 年以上 30 年未満	30 年以上 40 未満	40 年以上	不明	
55～64 歳	20 3.9%	11 2.1%	49 9.5%	85 16.4%	109 21.1%	243 47.0%	0	517 100.0%
65～74 歳	9 2.3%	12 3.1%	25 6.5%	20 5.2%	42 10.9%	277 71.9%	0	385 100.0%
75 歳以上	2 1.2%	3 1.8%	7 4.1%	3 1.8%	13 7.7%	132 78.1%	9 5.3%	169 100.0%
合計	31 2.9%	26 2.4%	81 7.6%	108 10.1%	164 15.3%	652 60.9%	9 .8%	1071 100.0%

(2) 現在の収入 (問11)

回答者本人または配偶者分を含めた現在の「最多収入」については、「仕事の収入」が最も多く43.1%であったが、「年金」（国民年金・厚生年金・共済年金などの合計）も48.9%も高く、仕事と年金に2分されている。この理由としては、回答者の世代が、中高年から高齢者にまたがっていることが大きい。

男女別にみると、収入に関しては配偶者と合わせての回答となるため、居住形態との関係からも見る必要があるが、男性の場合は就業率が高いこともあり「仕事の収入」において女性と6.5ポイントの差がみられた。女性の場合は、主な収入源を年金に頼っている割合が高いが、「国民年金」において、4.6ポイントの男性に比べて若干ではあるが高い割合を示しており、「国民年金」「厚生年金」「共済年金」を合わせて「年金」とした場合、男性は47.2%、女性は50.9%であり3.7ポイントの差となっている。主な収入源について年齢別にみると、現役世代である「55-64歳」では、「仕事の収入」の割合が高く、それ以外の年齢層では「年金」が高い。当然の結果である。また、「65～74歳」に比べて、「75歳以上」の方が「国民年金」の割合が10.5ポイント高く、国民年金の給付水準が低いということと合わせて考えれば、世代（コーフォート：生まれた年代を同じくする年齢集団：例「昭和一桁生まれ」）の違いを割り引いても、高齢者の貧困問題とひとくくりにはくれない様子もみえてくる。

表7 高齢者または高齢夫婦の主な収入源

	仕事の収入	国民年金	厚生年金	共済年金	その他の年金	仕送り	不動産収入	その他
男性	258 46.2%	63 11.3%	131 23.4%	70 12.5%	15 2.7%	1 0.2%	9 1.6%	4 0.7%
女性	202 39.7%	81 15.9%	136 26.7%	42 8.3%	12 2.4%	3 0.6%	5 1.0%	3 0.6%
不明	2 66.7%	0	1 33.3%	0	0	0	0	0
合計	462 43.1%	144 13.4%	268 25.0%	112 10.5%	27 2.5%	4 0.4%	14 1.3%	7 0.7%

預貯金などの 取り崩し 10	老齢年金以 外の年金 11	不明	合計
1 0.2%	0 0.0%	7 1.3%	559 100.0%
2 0.4%	5 1.0%	18 3.5%	509 100.0%
0	0	0	3 100.0%
3 0.3%	5 0.5%	25 2.3%	1071 100.0%

(3) 暮らし向きについて（問6）

次に現在の暮らし向きについてみて見る。暮らしにゆとりがあるかどうかという経済的要因も、社会参加活動に強い影響力を持っていると思われる。

暮らし向きについて、「ゆとりがある」と回答したのは全体の3.4%、「まあゆとりがある」は10.6%、「普通」は54.3%、「少し苦しい」は20.1%、「苦しい」は10.6%となった。「普通」という中間的な回答の割合が高いのは、この種の調査の一般的な傾向であるが、「少し苦しい」「苦しい」をあわせると全体の30.7%となり、全体の3割が生活の厳しさを感じており、かなり高めの数値といえるだろう。

男女別にみると、「ゆとりがある」「まあゆとりがある」を合わせ「ゆとりがある」とすると、「ゆとりがある」と感じているのは、男性 13.6%、女性 14.5%でほとんど差が見られない。他方、「少し苦しい」「苦しい」を合わせて「苦しい」とすると、男性では 33.7%、女性は 27.7%と 6.0 ポイントの差がみられ、意外にも、男性の方が生活苦を感じている割合が高いということになる。

表 8 性別別 暮らし向き

	暮らし向き						合計
	ゆとりがある	まあゆとりがある	ふつう	少し苦しい	苦しい	不明	
男性	18 3.2%	58 10.4%	292 52.2%	125 22.4%	63 11.3%	3 .5%	559 100.0%
女性	18 3.5%	56 11.0%	290 57.0%	90 17.7%	51 10.0%	4 .8%	509 100.0%
不明	0	0	0	0	0	3 100.0%	3 100.0%
合計	36 3.4%	114 10.6%	582 54.3%	215 20.1%	114 10.6%	10 .9%	1071 100.0%

表 9 年齢別 暮らし向き

	暮らし向き						合計
	ゆとりがある	まあゆとりがある	ふつう	少し苦しい	苦しい	不明	
55～64 歳	17 3.3%	64 12.4%	249 48.2%	121 23.4%	65 12.6%	1 .2%	517 100.0%
65～74 歳	11 2.9%	39 10.1%	231 60.0%	68 17.7%	36 9.4%	0 .0%	385 100.0%
75 歳以上	8 4.7%	11 6.5%	102 60.4%	26 15.4%	13 7.7%	9 5.3%	169 100.0%
合計	36 3.4%	114 10.6%	582 54.3%	215 20.1%	114 10.6%	10 .9%	1071 100.0%

年齢別にみると、「54～64 歳」において、「少し苦しい」「苦しい」を合わせると 36.0%、「65-74 歳」では 27.1%、「75 歳以上」では、23.1%と、「54～64 歳」を仮に「現役世代」とするならば、現役世代の方が生活の苦しさを感じている。この世代の多くが、まだ、大学生等の「自立」前の子供をかかえたライフステージにあり、教育費や、場合によっては、住宅費などの大きな、社会的に相場の決まっている支出が大きいものと思われる。また、他方、これまでの調査等でも指摘されているように、無職となった引退後の高齢者の生活は、質素でつましものであることが一般的であり、その意味では、所得が低下しても、生活苦をあまり感じないでやりくりをしていることが考えられる。

いずれにしても、暮らし向きは“余暇”としての社会参加活動に強い影響力をもつものであろうことは間違いない。

Ⅲ.仕事の状況

高齢者にとって仕事は、暮らしの支えとなる経済的な意味だけでなく、人々とのつながり（社会関係）や、社会的活動や役割を担った社会参加活動であったり、多様な意味を持っている。

（１）現在の就労状況（問7）

まず現在の就労状況についてみると、「無職」が最も多く、全体の43.0%を占める。次に大きなものは、正規、非正規、内職を含む「雇用者」で26.0%、ついで自営業（農林商工）、自由業も大きく合わせて23.6%を占めている。回答者の就業状況は、大きくこの3つのカテゴリーに分類される。会社経営など経営層も5.1%ある。雇用者で正規職員・従業員であるものは全体の14.1%（雇用者の54%）、「派遣社員・パート・アルバイト」（非正規）は、全体の10.6%（同40.8%）である。相対的な安定雇用と不安定雇用とに二分されている。

性別でみると、「無職」は、女性が 50.6%で、やはり男性より 14.2 ポイント高い割合を占めている。他は、大きな差は認められないが、「会社経営者・役員」では 3.1 ポイント、男性の方が割合が高く、「正規職員（管理）（技術）（事務）（現業）」と「非正規職員」で比べると、女性では後者の割合が高く、男女の差が逆転していることがわかる。

就業状況は年齢に規定されるところが大きい。定年年齢を間に挟みながらも就労意欲が高く、また経済的にも働かざるを得ない 55～64 歳層では 4 分の 3 の人は仕事についており、雇用者も全体の 45%に達している。65 歳を超えると、雇用者の比率は低下し、無職と自営業の割合が上昇するということになる。とりわけ 65～74 歳で、農業・漁業や商工自営業などが 2 割強（会社経営・役員を含めると 25%）をしめているのは、特徴と言ってよい。また、「無職」についてみると、「54～64 歳」では 26.2%、「65～74 歳」では 56.8%、「75 歳以上」では 64.3%と、加齢とともに大きくなっている。当然の結果ともいえるが、やはり、今後の社会のありようを考えたときに、「65～74 歳」「75 歳以上」において、社会参加的な就労も含めた就労対策が大きな課題であることが見て取れる。

表 10 性別 就労状況 （問 7）

	会社経営者 ・役員	正規職員 (管理)	正規職員 (技術)	正規職員 (事務)	正規職員 (現業)	非正規	自営業
男性	37 6.6%	24 4.3%	42 7.5%	11 2.0%	34 6.1%	46 8.3%	50 9.0%
女性	18 3.5%	6 1.2%	18 3.5%	4 .8%	12 2.4%	68 13.4%	29 5.7%
無回答	0	0	0	0	0	0	0
合計	55 5.1%	30 2.8%	60 5.6%	15 1.4%	46 4.3%	114 10.7%	79 7.4%

自営業 (家族従業者)	内職	農林漁業	無職	その他	無回答	合計
3 .5%	3 .5%	95 17.1%	203 36.4%	3 .5%	6 1.1%	557 100.0%
19 3.7%	10 2.0%	56 11.0%	257 50.6%	2 .4%	9 1.8%	508 100.0%
0	0	0	1 33.3%	0	2 66.7%	3 100.0%
22 2.1%	13 1.2%	151 14.1%	461 43.2%	5 .5%	17 1.6%	1068 100.0%

表 11 年齢別就労状況（問 7）

	就労状況										合計
	会社経営 者・役員	正規職 員	非正規	自営業	自営業(家 族従業者)	内職	農林漁 業	無職	その他	無回答	
55～ 64 歳	38 7.4%	30 27.8%	87 16.9%	36 7.0%	10 1.9%	4 .8%	57 11.0%	135 26.2%	2 .4%	3 .6%	516 100.0%
65～ 74 歳	15 3.9%	0	27 7.0%	28 7.3%	11 2.9%	5 1.3%	63 16.4%	218 56.8%	2 .5%	8 2.1%	384 100.0%
75 歳 以上	2 1.2%	0	0	15 8.9%	1 .6%	4 2.4%	31 18.5%	108 64.3%	1 .6%	6 3.6%	168 100.0%
合計	55 5.1%	30 14.1%	114 10.7%	79 7.4%	22 2.1%	13 1.2%	151 14.1%	461 43.2%	5 .5%	17 1.6%	1068 100.0%

（2） 仕事をしている理由・目的（問8）

現在、仕事をしている人に、仕事をしている目的について回答してもらったところ、「働かないと生活できない」といういわば「家計の維持」が最も多く46.9%であった。次いで多いのはやはり「家計の維持」につながる「家計の足し」で、27.0%となっている。これら二つを合わせると、全体の73.9%である。回答者が69歳以下で7割弱をしめているので、この回答は当然と言える。これらの次の多いのが、「自分の知識や技術・経験を生かしたい」（6.0%）、「生きがい、社会的貢献」（5.6%）となっており、高齢者の社会参加の意味につながる部分であるが、割合としては16%で多いとは言えない。「健康維持」のためというのも、よくいわれてことであるが、4.1%ほどで、それほど大きいものではない。

男女別にみると、「生活できない」において男性52.3%、女性39.2%であり、男性の方が女性よりも13.1ポイント割合が高い。「生きがい・社会貢献」「社会的義務」において、若干ではあるが男性では割合が高く、男性と女性の雇用形態の違いが影響しているかもしれない。

表 12 性別 就労理由

	生活 できない	家計の 足し	趣味に 使う	健康 維持	生きがい 社会貢献	充実感	社会との つながりを 得るため
男性	181 52.3%	81 23.4%	2 .6%	10 2.9%	21 6.1%	8 2.3%	8 2.3%
女性	94 39.2%	77 32.1%	5 2.1%	14 5.8%	12 5.0%	11 4.6%	4 1.7%
合計	275 46.9%	158 27.0%	7 1.2%	24 4.1%	33 5.6%	19 3.2%	12 2.0%

技術・経験を 生かしたい	社会的 義務	その他	計
16 4.6%	18 5.2%	1 .3%	346 100.0%
19 7.9%	4 1.7%	0	240 100.0%
35 6.0%	22 3.8%	1 0.2%	586 100.0%

年齢別では、55～64歳では「生活できない」「家計維持」の合計（生活のため）が78.0%、65～74歳では、65.2%、75歳以上では70.6%となっていて、前期高齢層でやや低い、いずれにしても年齢との相関は見られず、いずれの年齢層でも「生活のため」が高い割合となっている。

一方、「生きがい・社会貢献」「技術・経験を生かしたい」「社会とのつながりを得るため」（これらを仮に**社会参加型就労理由**とすると）は、合わせて14.5%であるが、年齢別でみると、64歳まででは10.3%、64～74歳21.5%、75歳以上13.7%となる。現役世代と考えられる64歳以前層では、1割程度に過ぎないが、前期高齢層では2割を超える。ここに、検討すべき、社会参加の大きな手がかりの一つがある。

（３） 仕事をしていない（無職）の理由

先に見た、現在の就労状況の設問「無職」と回答した人の、無職の理由を聞いてみた。

無職の理由は、「高齢のため」と「体調が良くない」の心身の状況によるものが、58.4%と、6割弱をしめている。性別では、男性では66.0%、女性では52.1%でかなり開きがある。男性はそれだけ、体や健康が許す限り働いているということでもある。これに、失業という止むを得ない理由によるものを加えると、全体でも65.9%に達する。（いずれも有職者・「仕事あり」を除いた母数を100とした割合）

年齢別では、55～64歳では、高齢、健康を理由とするものが、25.2%、65～74歳65.6%、75歳以上では85.2%となっている。年齢が上がるにつれて、急激に高くなっている。加齢が進んでも、無職であることの理由が、心身の状況に収斂してしまうということは、こうした理由のほかに、**積極的に職業生活から引退する理由**をもちあわせていないからに他ならない。よくいわれている「生涯現役」という言葉は、ここでは、働くこと以外に高齢期を有意義あるいは豊かに過ごす術を持ち合わせていないことの別の表現のように思える。「自由な時間がほしから」といった積極的あるいは、心身状況が悪くなる前の引退（無職化）は、全体でわずか7.4%、65～74歳でも9.2%に過ぎないことが、こうした状況を裏付けている。

こうした、仕事、ひいては社会的引退に対する高齢者の意識転換も、社会参加の促進を考える上で重要な課題といえる。

表 13 年齢別 無職の理由

	高齢	主婦業	体調不良 ・不健康	自由な時間 がほしい	失業中	働く必要 がない	その他
55～64 歳	20 3.9%	45 8.7%	14 2.7%	12 2.3%	27 5.2%	6 1.2%	9 1.8%
65～74 歳	113 29.4%	27 7.0%	30 7.8%	20 5.2%	8 2.1%	6 1.6%	5 1.3%
75 歳以上	82 48.8%	7 4.2%	10 6.0%	2 1.2%	0	4 2.4%	0 .0%
合計	215 20.1%	79 7.4%	54 5.0%	34 3.2%	35 3.3%	16 1.5%	14 1.3%

仕事あり	不明	合計
380 73.5%	4 0.8%	517 100.0%
162 42.1%	14 3.6%	385 100.0%
55 32.7%	8 4.8%	168 100.0%
597 55.8%	26 2.4%	1070 100.0%

IV. 普段の生活

(1) 自由時間の過ごし方（問 12 3つ選択）

仕事をしない（無職）であることの積極的な理由としては、「自由な時間がほしい」は、きわめて少ないという結果が見られたが、普段の自由時間の使い方はどうであろうか。

もっとも大きなものは「テレビ、ラジオ、新聞等の見聞き」で、回答した高齢者等を 100 としたときの割合である回答率は 77.8%で、4 分の 3 の人たちがこうしたマスメディアを利用して自由時間を過ごしているということである。ついで「趣味・娯楽」39.7%、「野菜作りや畑いじり：家庭菜園」37.7%、「仲間と集まったり、おしゃべりをしたり：友人との談話」21.8%、「軽い運動やスポーツ」20.9%、「家族との団欒」17.9%、「何もしないでのんびりと」17.0%などとなっている。テレビなど以外では、趣味・娯楽や家庭菜園など自分自身の楽しみごとが回答率が高く、友人、家族、孫などの人間関係つながるものが、それに続くが、それほど高くはない。軽い運動や「何もしないで」といった「気晴らし」も、2 割前後の回答率である。回答総件数は 2649 であるから、回答者が一人平均 2.5 の選択肢に丸をつけたことになる。

自由な時間の使い方について、男女間に大きな差がみられたのは、「友人との談話」であり、女性の方が 18.3 ポイント高い割合となっている。一方、「軽い運動」では、女性よりも男性の方が 10.4 ポイントの高い割合を示しており、「趣味・娯楽」においては、男性の方が 7.0 ポイントの高い割合を示していた。女性にくらべ男性の方が、自由な時間を一人で過ごすことを望んでいるのかもしれない。

年齢別にみると、「家族との団欒」の占める割合が、65 歳以上になると（「65～74 歳」「75 歳以上」）減少する傾向にあるが、一方で「友人との談話」が増える傾向にある。この点については、子どもや孫との一緒に暮らしが少なくなるなどして、団欒すべき家族が配偶者だけになってしまうとか、ひとり暮らしになり相手がいなくなるなど、同居家族状況の変化によるものと思われる。そうした家族状況との関連から、さらにみていく必要があるだろう。また「趣味・娯楽」は年齢とともに減少する傾向がみられ、一方で「家庭菜園」が増える傾向にある。「趣味・娯楽」は、内容にもよるが、舞踊やカラオケなど自宅の外で、仲間と一緒に楽しむようなものの場合などは、高齢となり、関わること自体が難しくなってしまった等、活動から遠のいてしまうことが影響しているのではないだろうか。他方、「家庭菜園」に関しては、身近なところで、自分の体力に合わせながら活動が可能なため、比較的年齢が高くなっても、続けることが出来るといった利点があるからとも考えられる。

こうした自由時間の使い方は、すでに、社会参加につながったり、重なったりしている部分もあると思われるので、こうした活動、行動を尊重しながら、より広げていけるような支援のあり方を工夫する必要があると思われる。

表 1 4 性別 自由な時間の使い方

	テレビ、新聞等の見聞き	家族との団欒	孫と遊ぶ	友人との談話	趣味・娯楽	家庭菜園	軽い運動	何もしないでのんびり	その他
男性	446 79.8%	106 19.0%	33 5.9%	73 13.1%	241 43.1%	198 35.4%	145 25.9%	102 18.2%	15 2.7%
女性	385 75.6%	85 16.7%	48 9.4%	160 31.4%	184 36.1%	206 40.5%	79 15.5%	79 15.5%	25 4.9%
不明	2 66.7%	1 33.3%	0	1 33.3%	0	0	0	1 33.3%	1 33.3%
合計	833 77.8%	192 17.9%	81 7.6%	234 21.8%	425 39.7%	404 37.7%	224 20.9%	182 17.0%	41 3.8%

不明	回答件数	合計者
15 2.7%	1374	559 100.0%
18 3.5%	1269	509 100.0%
0	6	3 100.0%
33 3.1%	2649	1071 100.0%

表15 年齢別 自由な時間の使い方

	テレビ、新聞等の見聞き	家族との団欒	孫と遊ぶ	友人との談話	趣味・娯楽	家庭菜園	軽い運動	何もしないでのんびり
55～ 64歳	408 78.9%	125 24.2%	42 8.1%	89 17.2%	232 44.9%	158 30.6%	86 16.6%	112 21.7%
65～ 74歳	304 79.0%	48 12.5%	34 8.8%	98 25.5%	144 37.4%	164 42.6%	104 27.0%	47 12.2%
75歳以上	121 71.6%	19 11.2%	5 3.0%	47 27.8%	49 29.0%	82 48.5%	34 20.1%	23 13.6%

その他	特になし	非該当	不明	合計
17 3.4%	264 51.1%	0	18 3.5%	517 100.0%
11 2.9%	192 49.9%	0	9 2.3%	385 100.0%
13 7.7%	107 63.3%	1 0.6%	6 3.6%	169 100.0%

(2) 普段の行動に対する取り組み方の気持 (問 13)

社会参加活動は、すでに見てきたように、どちらかと言えば、受動的ではなく、より主体的、積極的、意識的に行うものであるといえる。そこで、こうした活動や行動は、中高齢者の前向きな活動や行動への意欲 (morale:モラル) が大きく左右されると考えられている。そこで、普段の生活の中で、どのような行動パターンをとっているのか聞いてみた。

普段、何か物事をするときの取り組み方の気持ちについて、「どちらかと言えば意欲的に取り組む」が最も多く、60.0%であり、これに「極めて意欲的に取り組む」を足すと 78.6%となり、普段の行動に対しては概ね積極的な気持で臨んでいると言えるだろう。意欲 (モラル) は、それなりに高いといつてよい。

行動時の気持ちについて、男女別にみると、「極めて意欲的」において、男性 20.2%、女性 16.7%と若干ではあるが、3.5 ポイント男性の方が高い割合を示しているものの、全体として、あまり大きな差は確認されない。

また、年齢についても大きな差は確認されない。モラルは、年齢や性差よりも、普段の生活態度や行動パターン、あるいは個人の価値観などによって、異なるといわれているので、ここでのデータは、これまでに言われてきた、一般的な見解に違わない結果となっているといえる。

全般的に高いモラル指標となっているので、社会参加行動や活動に結びつきやすい条件が、この面でも整っているといえる。

表 16 性別 行動時の気持ち

	極めて意欲的	どちらかといえば意欲的	どちらかといえば消極的	非常に消極的	不明	合計
男性	113 20.2%	333 59.6%	95 17.0%	11 2.0%	7 1.3%	559 100.0%
女性	85 16.7%	309 60.7%	91 17.9%	7 1.4%	17 3.3%	509 100.0%
不明	1 33.3%	1 33.3%	0	1 33.3%	0	3 100.0%
合計	199 18.6%	643 60.0%	186 17.4%	19 1.8%	24 2.2%	1071 100.0%

表 17 年齢別 行動時の気持ち

	極めて 意欲的	どちらかとい えば意欲的	どちらかとい えば消極的	非常に 消極的	不明	合計
55～64 歳	87 16.8%	315 60.9%	100 19.3%	4 0.8%	11 2.1%	517 100.0%
65～74 歳	77 20.0%	232 60.3%	57 14.8%	9 2.3%	10 2.6%	385 100.0%
75 歳以上	35 20.7%	96 56.8%	29 17.2%	6 3.6%	3 1.8%	169 100.0%
合計	199 18.6%	643 60.0%	186 17.4%	19 1.8%	24 2.2%	1071 100.0%

V.健康状態－心身の状況

社会参加活動を考える上で、消極的、あるいは阻害要因、負の要因に目を向けることも忘れてはならない。その代表的なものは、心身の健康問題である。高齢化に伴う疾病や健康状態は、加齢とともに必然的に悪化すると考えられがちである。しかし、この問題は、個人差が大きいことと、文字通り、環境的条件によって大きく異なるとされている。

(1) 現在の健康状態（問 14）

現在の健康状態について、回答者本人の自己評価（セルフ・イメージ）について聞いてみた。回答は「普通」（48.5％）に集中した。健康状態が「良い」「まあ良い」を足すと 26.9％、「あまり良くない」「良くない」を足すと、22.7％となっており、全体の 5 分の 1 程度の人が、健康状態が良くないと答えている。これも回答者の年齢幅が大きいことによるといえる。

男女別にみると、健康状態については、「良い」と「まあ良い」を合わせて「良い」とした割合は、男性が 29.2％、女性が 24.6％と、男性 4.6 ポイント割合が高く、「普通」では、女性の方が、6.1 ポイント割合が高かった。「あまり良くない」「良くない」を合わせて「良くない」とした場合、男性が 24.0％、女性が 21.0％と男性の方が若干ではあるが 3.0 ポイント高い。

女性と比較したとき、いずれにしても、男性の方が、「良い」「悪い」がややはっきりしているといえる。

表 18 性別 健康状態（セルフイメージ）

	良い	まあ良い	普通	あまり良くない	良くない	不明	合計
男性	77 13.8%	86 15.4%	255 45.6%	114 20.4%	20 3.6%	7 1.3%	559 100.0%
女性	56 11.0%	69 13.6%	263 51.7%	85 16.7%	22 4.3%	14 2.8%	509 100.0%
不明	0	0	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	0	3 100.0%
合計	133 12.4%	155 14.5%	519 48.5%	200 18.7%	43 4.0%	21 2.0%	1071 100.0%

表 19 年齢別 健康状態（セルフイメージ）

	良い	まあ良い	普通	あまり良くない	良くない	不明	合計
54～64 歳	84 16.2%	84 16.2%	259 50.1%	68 13.2%	12 2.3%	10 1.9%	517 100.0%
65～74 歳	37 9.6%	55 14.3%	181 47.0%	85 22.1%	19 4.9%	8 2.1%	385 100.0%
75 歳以上	12 7.1%	16 9.5%	79 46.7%	47 27.8%	12 7.1%	3 1.8%	169 100.0%
合計	133	155	519	200	43	21	1071

年齢別にみると、健康状態について、「あまり良くない」「良くない」を合わせ「良くない」とした場合、「55～64歳」では15.5%、「65～74歳」では27.0%、「75歳以上」では34.9%と、ごく自然なことであるが、年齢が上がるにつれて健康状態を「良くない」とする人が増えるといった相関関係にあることがわかる。

こうした健康のセルフ・イメージ（自己評価）は、具体的な病気の有無との相関が明確なわけではなく、むしろ、病気であろうが無かろうが、本人が、高い評価をもてるかどうか重要なことなのである。

（2）要介護状況（問15）

上で述べたように、本人の健康意識や自己評価が重要で、例えば、要介護状態にあっても、社会参加活動は、十分可能であるという前提で、本設問をした。

さすがに、要介護認定「申請なし」が87.2%であった。答えられる状況の人が今回の調査に対応してくれたことを考えると当然の結果ともいえる。無回答が1割ほどもある点が気になるところである。

性別と要介護認定との関連についてみると、「申請していない」が男性の方が女性よりも、6.1ポイント高い割合となっているが、「無回答」において女性の方が5.8ポイント高い割合となっており、この状況だけからでは男性の方が「申請していない」＝「健康である」といった状況にあるとは言いきれないのであるが、むしろ、女性よりも「健康である」という意識が高いので、当然、要介護認定を申請していない人の割合も高いということである。

年齢と要介護認定の関連においては、年齢による差異がみられない。先に述べた、「健康の自己評価：セルフ・イメージ」が、もともと、具体的な疾病や心身の不調と直結したものではないということと、本調査では回答者を「ある程度健康である人」を想定しており、要介護認定を受けていると考えられる世代（80歳代）の人たちが回答から外れているということで、このような結果となっている。

表 20 性別 要介護認定 (問 15)

	申請して いない	申請中	非該当	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4
男性	504 90.2%	0	0	1 0.2%	5 0.9%	3 0.5%	2 0.4%	2 0.4%	3 0.5%
女性	428 84.1%	1 0.2%	1 0.2%	0	1 0.2%	2 0.4%	3 0.6%	4 0.8%	3 0.6%
無回答	2 66.7%	0	0	0	0	0	1 33.3%	0	0
合計	934 87.2%	1 0.1%	1 0.1%	1 0.1%	6 0.6%	5 0.5%	6 0.6%	6 0.6%	6 0.6%

要介護 5	わからない (認定済み)	無回答	合計
0	3 0.5%	36 6.4%	559 100.0%
3 0.6%	1 0.2%	62 12.2%	509 100.0%
0	0	0	3 100.0%
3 0.3%	4 0.4%	98 9.2%	1071 100.0%

表 21 年齢別 要介護認定 (問 15)

	申請して いない	申請中	非該当	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3
54～64 歳	455 88.0%	0	0	0	1 0.2%	0	0	2 0.4%
65～74 歳	337 87.5%	1 0.3%	0	1 0.3%	1 0.3%	4 1.0%	1 0.3%	0 0.0%
75 歳以上	142 84.0%	0	1 0.6%	0	4 2.4%	1 .6%	5 3.0%	4 2.4%
合計	934 87.2%	1 0.1%	1 0.1%	1 0.1%	6 0.6%	5 0.5%	6 0.6%	6 0.6%

要介護 4	要介護 5	わからない (認定済み)	無回答	合計
1 0.2%	0	0	58 11.2%	517 100.0%
3 0.8%	1 0.3%	4 1.0%	32 8.3%	385 100.0%
2 1.2%	2 1.2%	0	8 4.7%	169 100.0%
6 0.6%	3 0.3%	4 0.4%	98 9.2%	1071 100.0%

(3) 持病があるか (問16)

全体の66.2%が、何らかの持病を持っている。問14で聞いた、健康状態の自己評価（セルフ・イメージ:「あまり良くない」「良くない」を合わせたもの22.7%）よりは、病気をもっている人の割合は66.2%と、かなり高い。持病があっても、元気に暮らしているというのが中高齢者の一般的な姿と言える。

性別と持病の関連では、男性の方が 5.6 ポイント持病がある割合が高い状況にある。

年齢との相関をみてみると、年齢 3 区分の低いほうから、56.1%、71.9%、84.0%と、年齢が上がるとともに、持病を持っている人の割合が上昇している。加齢との相関関係は明確であるといえる。

表 2 2 性別 持病 (問 1 6)

	ある	なし	無回答	合計
男性	385 68.9%	165 29.5%	9 1.6%	559 100.0%
女性	322 63.3%	177 34.8%	10 2.0%	509 100.0%
無回答	2 66.7%	1 33.3%	0	3 100.0%
合計	709 66.2%	343 32.0%	19 1.8%	1071 100.0%

表 2 3 年齢別 持病 (問 1 6)

	ある	なし	無回答	合計
54～64 歳	290 56.1%	219 42.4%	8 1.5%	517 100.0%
65～74 歳	277 71.9%	100 26.0%	8 2.1%	385 100.0%
75 歳以上	142 84.0%	24 14.2%	3 1.8%	169 100.0%
合計	709 66.2%	343 32.0%	19 1.8%	1071 100.0%

(4) 医療機関への通院状況 (問 17)

持病のある人の医療機関への通院状況は、「月一回」が最も多く 61.2%であった。その他では、「月に 2,3 回」13.4%、「2,3 ヶ月に 1 回」11.8%などとなっていて、通院の頻度はそれほど高くない。やはり多くは慢性疾患であると思われる。また、割合としては小さいが、持病が有りながらも、5.2%の人が医療機関へ通院していないという問題状況がある。

性別と通院頻度の関連では、「月一回」において男性の方が女性よりも 4.2 ポイント、多い割合となっているが、これは持病の有無と関連していると考えられる。

年齢との、規則的な関連性＝相関は見られない。やはり、通院の頻度は、疾病の内容や重さによって決まるものと考えられる。

表 2 4 性別 医療機関への通院状況 (問 1 7)

	していな い	週 1 回	週 2 回 以上	月 2～ 3 回	月 1 回	その他	2、3 ヶ月 に 1 回	合計
男性	24 6.3%	11 2.9%	13 3.4%	48 12.5%	243 63.3%	5 1.3%	40 10.4%	384 100.0
女性	13 4.0%	12 3.7%	7 2.2%	45 19.3%	191 59.1%	11 3.4%	44 13.6%	323 100.0
無回答	0	0	0	2 100.0	0	0	0	2 100.0
合計	37 5.2%	23 3.2%	20 2.8%	95 13.4%	434 61.2%	16 2.3%	84 11.8%	709 100.0

VI.生活環境

(1) 住まいの状況 (問18)

住まいの状況について、「持ち家（一戸建て）」が最も高く、87.2%であり、これに「持ち家（集合住宅）」を足すと91.6%となり、持ち家率は全体の9割にのぼる。持ち家の内容、とりわけ住宅の広さや質といったことは、わからないが、極めて高い持ち家率といえる。高齢者の持ち家率は、全国平均でも8割を超えるが、その中でも、岩手は高い。

性別による大きな差は特に確認されない。年齢による大きな差もみられない。

表 2 5 年齢別 住宅の状況

	持ち家 (一戸建て)	持ち家 (集合住宅)	賃貸 (一戸建て)	賃貸 (集合住宅)	給与住宅	その他	不明	合計
54～64 歳	443 85.7%	31 6.0%	10 1.9%	25 4.8%	4 0.8%	1 0.2%	3 0.6%	517 100.0%
65～74 歳	341 88.6%	15 3.9%	7 1.8%	10 2.6%	0 0.0%	4 1.0%	8 2.1%	385 100.0%
75 歳以上	150 88.8%	1 0.6%	4 2.4%	6 3.6%	0 0.0%	4 2.4%	4 2.4%	169 100.0%
合計	934 87.2%	47 4.4%	21 2.0%	41 3.8%	4 0.4%	9 0.8%	15 1.4%	1071 100.0%

(2) 車（バイク）の免許取得率（問 19）

社会活動はもちろんであるが、岩手の多くの地域では、通勤はもちろん、通院、買い物など、もちろん社会活動などにおいても、車は生活の必需品であり、その有無は、中高齢者の活動を大きく左右するものといえる。そこで、ゆとりの有無は別にして、車は多くの家庭で保持可能なものとみなして、その使用を可能にする、運転免許の「有無」と日ごろの車の利用の有無について聞いてみた。

「あり（運転している）」「あり（運転していない）」を「免許取得」とすると、全体では、免許の保有率は、75.5%である。性別では、男性 90.3%、女性 59.0%で、やはり調査対象者の年代としては、女性の保有率は低く、免許取得率自体に 31.3 ポイントもの差があることが分かる。

表 3 3 性別 車の免許（問 1 9）

	あり (運転している)	あり (運転していない)	なし (免許返上)	なし	無回答	合計
男性	464 83.0%	41 7.3%	11 2.0%	38 6.8%	5 0.9%	559 100.0%
女性	265 52.1%	35 6.9%	17 3.3%	185 36.3%	7 1.4%	509 100.0%
無回答	2 66.7%	1 33.3%	0	0	0	3 100.0%
合計	731 68.3%	77 7.2%	28 2.6%	223 20.8%	12 1.1%	1071 100.0%

年齢と車の免許（運転状況）の関連では、「あり（運転していない）」においては、年齢による差が見られないが、「あり（運転している）」においては、「54～64 歳」において 80.9%、「65～74 歳」では 62.3%、「75 歳以上」では 43.2%と運転している人の割合は低下し、また、他方では年齢層が上がるにつれて運転免許自体を持たない人の割合が高くなっている。

社会参加活動は、外出のための、いわゆる「足」の確保が重要になるので、こうした「外出能力」格差、とりわけ「弱者」への対応が不可欠と考えられる。

表 3 4 年齢別 車の免許 (問 1 9)

	あり (運転している)	あり ((運転し ていない)	なし (免許返上)	なし	無回答	合計
55～64 歳	418 80.9%	41 7.9%	2 0.4%	52 10.1%	4 0.8%	517 100.0%
65～74 歳	240 62.3%	24 6.2%	13 3.4%	101 26.2%	7 1.8%	385 100.0%
75 歳以上	73 43.2%	12 7.1%	13 7.7%	70 41.4%	1 0.6%	169 100.0%
合計	731 68.3%	77 7.2%	28 2.6%	223 20.8%	12 1.1%	1071 100.0%

VII.人間関係：ネットワーク

活動は、それ自体の目的は、それぞれにあるのは当然であるが、わが国の高齢者の多くは、社会活動や余暇活動においては、「誰かと一緒にする」という人間関係上のつながりが伴っていることが多い。

また、社会活動をする要件・条件としても、「仲間がいること」を重視する人も多い。そこでこうした、社会活動に影響をもつ、人間関係＝ネットワークについて、最も基本となる、地域（コミュニティ＝近隣）、親族（kin-net =work）,友人の 3 つの場面について聞いてみた。

(1) 近所付き合い (問 20)

近所付き合いについて、「かなり親しい付き合いがある」「まあまあ付き合いがある」を合わせ「付き合いがある」とすると 78.1%の人が、近所付き合いがあることが分かる。「ぜんぜん付き合いがない」はさすがに、4 %程度であるが、「あまりない」を含めると、近隣関係が「疎」のひとは 2 割程度になる。

印象としては、近所付き合いの親しさにおいて男性の方が低い割合と思っていたが、性別による大きな差は確認されなかった。

年齢別にみると、近所づきあいについては、「かなり親しい付き合い」「まあ親しい付き合い」を「親しい付き合い」とすると、「54～64 歳」では 69.9%、「65～74 歳」では 82.6%、「75 歳以上」では 84.0%と、年齢が上がるにつれて親しい付き合いのある人の割合が高くなっている。

表 3 5 性別 近所づきあい

	かなり親しい 付き合い	まあ親しい 付き合い	あまり付き合 いない	全く付き合い ない	不明	合計
男性	115 20.6%	327 58.5%	91 16.3%	21 3.8%	5 0.9%	559 100.0%
女性	91 17.9%	301 59.1%	82 16.1%	24 4.7%	11 2.2%	509 100.0%
不明	1 33.3%	2 66.7%	0	0	0	3 100.0%
合計	207 19.3%	630 58.8%	173 16.2%	45 4.2%	16 1.5%	1071 100.0%

表 3 6 年齢別 近所づきあい

	かなり親しい 付き合い	まあ親しい 付き合い	あまり付き合 いない	全く付き合い ない	不明	合計
55～64 歳	86 16.6%	291 56.3%	106 20.5%	28 5.4%	6 1.2%	517 100.0%
65～74 歳	71 18.4%	247 64.2%	51 13.2%	9 2.3%	7 1.8%	385 100.0%
75 歳以上	50 29.6%	92 54.4%	16 9.5%	8 4.7%	3 1.8%	169 100.0%
合計	207 19.3%	630 58.8%	173 16.2%	45 4.2%	16 1.5%	1071 100.0%

(2) 親戚付き合い (問 21)

親戚づきあいについて、「かなり親しい付き合いがある」「まあまあ付き合いがある」を合わせ「付き合いがある」とすると 89.2%の人が、親戚付き合いがあることが分かり、近所付き合いと比べてもかなり高い割合である。

親戚づきあいにおいても、近所づきあいと同様、男女の差は確認されない。

年齢別でみると、親戚づきあいについては、「かなり親しい付き合い」「まあ親しい付き合い」を「親しい付き合い」とすると、「54～64歳」では87.5%、「65～74歳」では89.9%、「75歳以上」では92.1%と、年齢が上がるにつれて親しい付き合いのある人の割合が高くなっている。

表 3 7 性別 親戚づきあい

	かなり親しい 付き合い	まあ親しい付 き合い	あまり 付き合いがない	全く 付き合いがない	不明	合計
男性	156 27.9%	338 60.5%	54 9.7%	6 1.1%	5 0.9%	559 100.0%
女性	135 26.5%	323 63.5%	41 8.1%	3 0.6%	7 1.4%	509 100.0%
不明	1 33.3%	2 66.7%	0	0	0	3 100.0%
合計	292 27.3%	663 61.9%	95 8.9%	9 0.8%	12 1.1%	1071 100.0%

表 3 8 年齢別 親戚づきあい

	かなり親し い付き合い	まあ親しい 付き合い	あまり付き合 いがない	全く付き合 いがない	不明	合計
55～64 歳	131 25.3%	321 62.1%	55 10.6%	6 1.2%	4 0.8%	517 100.0%
65～74 歳	110 28.6%	236 61.3%	30 7.8%	3 0.8%	6 1.6%	385 100.0%
75 歳以上	51 30.2%	106 62.7%	10 5.9%	0 0.0%	2 1.2%	169 100.0%
合計	292 27.3%	663 61.9%	95 8.9%	9 0.8%	12 1.1%	1071 100.0%

(3) きょうだい付き合い (問 22)

きょうだい付き合いについて、「かなり親しい付き合いがある」「まあまあ付き合いがある」を合わせると 87.4%である。親戚の中でもきょうだいに限定してみると、「かなり親しい付き合い」は、37.4%で、親戚全般での付き合いより 10 ポイントほど高い。

男女別にみると、きょうだい付き合いについて、「かなり親しい付き合い」「まあ親しい付き合い」を合わせて「親しい」とした場合、男性は 84.6%、女性は 90.6%と女性の方が 6 ポイント高い割合を示している。

年齢別にみると、「かなり親しい付き合い」「まあ親しい付き合い」を「親しい付き合い」とすると、「54～64 歳」では 86.6%、「65～74 歳」では 87.8%、「75 歳以上」では 88.8%と、年齢との相関は確認されない。

表 3 9 性別 きょうだいづきあい

	かなり親しい 付き合い	まあ親しい 付き合い	あまり付き 合いない	全く付き合 いない	きょうだい なし	不明	合計
男性	189 33.8%	284 50.8%	52 9.3%	11 2.0%	18 3.2%	5 0.9%	559 100.0%
女性	211 41.5%	250 49.1%	19 3.7%	8 1.6%	17 3.3%	4 0.8%	509 100.0%
不明	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	0	0	0	3 100.0%
合計	401 37.4%	535 50.0%	72 6.7%	19 1.8%	35 3.3%	9 0.8%	1071 100.0%

表 4 0 年齢別 きょうだいづきあい

	かなり親し い付き合い	まあ親しい 付き合い	あまり付き 合いない	全く付き 合いない	きょうだい なし	不明	合計
55～64 歳	176 34.0%	272 52.6%	39 7.5%	10 1.9%	17 3.3%	3 0.6%	517 100.0%
65～74 歳	150 39.0%	188 48.8%	24 6.2%	6 1.6%	12 3.1%	5 1.3%	385 100.0%
75 歳以上	75 44.4%	75 44.4%	9 5.3%	3 1.8%	6 3.6%	1 0.6%	169 100.0%
合計	401 37.4%	535 50.0%	72 6.7%	19 1.8%	35 3.3%	9 0.8%	1071 100.0%

(4) 友人付き合い (問 23)

次のような友人はいるか否かという質問を行い、その結果を、付き合いが深い順に選択肢を並べたのが表 41 である。「困りごと～」「趣味や生きがい～」「たまに旅行したり～」を合わせると 71.2%であり、全体の 7 割の人が親しい付き合いをしている友人がいることが分かる。1 割には満たないが「友人はいない」という人もおり、気になる点である。

男女別にみると、選択肢は、親しさの深さの順で並べられている。「相談できる友人がいる」は、最も親しい付き合いのある友人として考えられ、男性 16.3%、女性 32.0%と女性の方が、15.7 ポイントも高い結果となり、この点からは女性の方が男性よりもより親しい友人関係を保持しているといえる。ただ、「生きがいを共にする友人」においては、6.3 ポイント男性の方が高い割合となり、また「旅行したりお茶を飲む友人」においても、男性の方が 9.9 ポイントと高い割合となっていることから、友人関係において、女性は、心理的な面での付き合いを求め、男性は、行動的な面での付き合い求める傾向にあるとも考えられる。

年齢別にみると、友人関係の内容について、選択肢は親しい付き合いの内容順に並べている。友人関係について、「相談できる友人」「旅行したりお茶を飲む友人」が年齢が上がるにつれて減っている。

「生きがいを共にする友人」は年齢が上がるにつれて増えている傾向にある。友人との付き合い内容の「親しさ」の変化というよりは、年齢によって友人に求める内容が異なるのではないかと考えられる。

表 4 1 性別 友人関係

	相談できる友人	生きがいを共にする友人	旅行したりお茶を飲む友人	儀礼的な付き合い	電話だけの友人	友人はいない	その他	不明	合計
男性	91 16.3%	149 26.7%	160 28.6%	37 6.6%	50 8.9%	51 9.1%	13 2.3%	8 1.4%	559 100.0%
女性	163 32.0%	104 20.4%	94 18.5%	48 9.4%	49 9.6%	37 7.3%	9 1.8%	5 1.0%	509 100.0%
不明	1 33.3%	0	1 33.3%	0	0	1 33.3%	0	0	3 100.0%
合計	255 23.8%	253 23.6%	255 23.8%	85 7.9%	99 9.2%	89 8.3%	22 2.1%	13 1.2%	1071 100.0%

表 4 2 年齢別 友人関係

	相談できる友人	生きがいを共にする友人	旅行したりお茶を飲む友人	儀礼的な付き合い	電話だけの友人	友人はいない	その他	不明	合計
54～64 歳	139 26.9%	100 19.3%	141 27.3%	22 4.3%	50 9.7%	47 9.1%	12 2.3%	6 1.2%	517 100.0%
65～74 歳	83 21.6%	106 27.5%	89 23.1%	36 9.4%	36 9.4%	27 7.0%	6 1.6%	2 0.5%	385 100.0%
75 歳以上	33 19.5%	47 27.8%	25 14.8%	27 16.0%	13 7.7%	15 8.9%	4 2.4%	5 3.0%	169 100.0%
合計	255 23.8%	253 23.6%	255 23.8%	85 7.9%	99 9.2%	89 8.3%	22 2.1%	13 1.2%	1071 100.0%

VIII.社会貢献意識

<社会の役になっているか否か>（問 24）

社会の役に立っていると感じているかという問いに対し、「感じている」「まあ感じている」を合わせると全体の 59.0%の人が、社会の役に立っていると感じているとしているが、「感じていない」が 1 割ほどあり、気になる点である。

社会貢献意識について、「感じている」「まあ感じている」を合わせると、男性が 68.1%、女性が 49.0%であり、男性の方が 19.1 ポイント高い割合を示している。男性の方が女性よりも、社会貢献意識を感じていることが分かる。

社会貢献意識について、「感じている」「まあ感じている」を合わせて「感じている」とすると、「54～64 歳」では 62.3%、「65～74 歳」では 55.9%、「75 歳以上」では 56.9%であり、年齢との相関は見られない。

表 4 3 性別 社会貢献意識（問 2 4）

	感じている	まあ感じている	あまり感じていない	感じていない	無回答	合計
男性	131 23.4%	250 44.7%	129 23.1%	37 6.6%	12 2.1%	559 100.0%
女性	61 12.0%	188 37.0%	182 35.8%	61 12.0%	16 3.1%	508 100.0%
無回答	1 50.0%	1 50.0%	0	0	0	2 100.0%
合計	193 18.1%	439 41.1%	311 29.1%	98 9.2%	28 2.6%	1069 100.0%

表 4 4 年齢別 社会貢献意識（問 2 4）

	感じている	まあ感じている	あまり感じていない	感じていない	無回答	合計
55～64 歳	96 18.6%	226 43.7%	138 26.7%	49 9.5%	8 1.5%	517 100.0%
65～74 歳	65 16.9%	150 39.0%	128 33.2%	28 7.3%	14 3.6%	385 100.0%
75 歳以上	32 19.2%	63 37.7%	45 26.9%	21 12.6%	6 3.6%	167 100.0%
合計	193 18.1%	439 41.1%	311 29.1%	98 9.2%	28 2.6%	1069 100.0%

IX.家事等のかかわり

(1) 家事担当 (問 25) 社会参加活動と家庭内の家事行動の関係 (相関) をみてみた。

①食事の支度

食事の支度について、「良くする」「ときどきする」を合わせる「する」とした場合、67.8%の人が食事の支度に携わっている。

男女別でみると、「よくする」において女性の方が 70.7 ポイント割合が高く、食事の支度は、女性の役割となっているといえる。

年齢による大きな差は認められない。しかし、「よくする」において、「54～64 歳」と「75 歳以上」を比べた場合、「75 歳以上」のほうが、4.9 ポイント割合が低くなっている。一般的に高齢独居者が増えていることを考えると、「75 歳以上」において、「よくする」の割合が高くてもおかしくないと考えられるが、やはり、全体としては子供等との同居者が多く、高齢化が進むに従い、家事役割が低下しているものと考えられる。

表 4 5 性別食事の支度 (問 2 5 . 1)

	よくする	ときどき する	あまり しない	しない	無回答	合計
男性	90 16.1%	153 27.4%	155 27.7%	155 27.7%	6 1.1%	559 100.0%
女性	442 86.8%	40 7.9%	11 2.2%	13 2.6%	3 0.6%	509 100.0%
無回答	1 33.3%	0	1 33.3%	1 33.3%	0	3 100.0%
合計	533 49.8%	193 18.0%	167 15.6%	169 15.8%	9 0.8%	1071 100.0%

表 4 6 年齢と食事の支度 (問 2 5 . 1)

	よくする	ときどき する	あまり しない	しない	無回答	合計
55～64 歳	266 51.5%	92 17.8%	79 15.3%	76 14.7%	4 0.8%	517 100.0%
65～74 歳	190 49.4%	67 17.4%	63 16.4%	61 15.8%	4 1.0%	385 100.0%
75 歳以上	77 45.6%	34 20.1%	25 14.8%	32 18.9%	1 0.6%	169 100.0%
合計	533 49.8%	193 18.0%	167 15.6%	169 15.8%	9 0.8%	1071 100.0%

②洗濯（問25②）

洗濯について、「良くする」と「ときどきする」を合わせて「する」とした場合、全体の68.2%が「する」と答えている。

洗濯について、「よくする」において女性の方が男性よりも 70.1 ポイント割合が高く、食事の支度と同様に洗濯の役割は女性が担っていることがわかる。

洗濯について、「よくする」「ときどきする」を合わせて「する」とした場合、「54～64 歳」において 70.4%、「65～74 歳」では 65.7%、「75 歳以上」では 66.9%であり、年齢による大きな差はみられないが、「よくする」だけでみると「75 歳以上」で割合が低く、「ときどきする」では割合が高くなっている。これも食事の支度と同じ傾向を示しているものと思われる。

表 4 7 性別 洗濯（問 2 5 . 2）

	よくする	ときどき する	あまり しない	しない	無回答	合計
男性	108 19.3%	128 22.9%	124 22.2%	194 34.7%	5 0.9%	559 100.0%
女性	455 89.4%	38 7.5%	2 0.4%	11 2.2%	3 0.6%	509 100.0%
無回答	1 33.3%	0	0	2 66.7%	0	3 100.0%
合計	564 52.7%	166 15.5%	126 11.8%	207 19.3%	8 0.7%	1071 100.0%

表 4 8 年齢別 洗濯（問 2 5 . 2）

	よくする	ときどき する	あまり しない	しない	無回答	合計
55～64 歳	280 54.2%	84 16.2%	65 12.6%	86 16.6%	2 0.4%	517 100.0%
65～74 歳	206 53.5%	47 12.2%	50 13.0%	77 20.0%	5 1.3%	385 100.0%
75 歳以上	78 46.2%	35 20.7%	11 6.5%	44 26.0%	1 0.6%	169 100.0%
合計	564 52.7%	166 15.5%	126 11.8%	207 19.3%	8 0.7%	1071 100.0%

③掃除

掃除について、「良くする」と「ときどきする」を合わせて「する」とした場合、全体の76.3%が「する」と答えている。

掃除について、「よくする」において、女性の方が男性よりも 50.0 ポイント高い割合となっており、他家事と同様、掃除の役割は女性が担っているが、他の家事作業に比べると男女間の差が減少し、男性のかかわりもみられる。

掃除について、「よくする」「ときどきする」を合わせて「する」とした場合、「54～64 歳」において 76.8%、「65～74 歳」では 76.3%、「75 歳以上」では 74.6%であり、年齢による差は見られない。食事の支度や洗濯は、他の家族員のものを含めて同時に行うことが多いが、掃除は、「自分の部屋は好きな時に自分がする」など、それぞれの家族員の管理区分毎になされることが多いためであろう。

表 4 9 性別 掃除 (問 2 5 . 3)

	よくする	ときどき する	あまり しない	しない	無回答	合計
男性	97 17.4%	229 41.0%	128 22.9%	99 17.7%	6 1.1%	559 100.0%
女性	343 67.4%	146 28.7%	7 1.4%	11 2.2%	2 0.4%	509 100.0%
無回答	1 33.3%	1 33.3%	0	1 33.3%	0	3 100.0%
合計	441 41.2%	376 35.1%	135 12.6%	111 10.4%	8 0.7%	1071 100.0%

表 5 0 年齢別 掃除 (問 2 5 . 3)

	よくする	ときどき する	あまり しない	しない	無回答	合計
55～64 歳	205 39.7%	192 37.1%	71 13.7%	47 9.1%	2 0.4%	517 100.0%
65～74 歳	171 44.4%	123 31.9%	48 12.5%	38 9.9%	5 1.3%	385 100.0%
75 歳以上	65 38.5%	61 36.1%	16 9.5%	26 15.4%	1 0.6%	169 100.0%
合計	441 41.2%	376 35.1%	135 12.6%	111 10.4%	8 0.7%	1071 100.0%

④家計や財産の管理

家計や財産の管理について、「良くする」と「ときどきする」を合わせて「する」とした場合、全体の69.5%が「する」と答えている。

財産管理について、「よくする」において男性よりも女性の方が 27.8 ポイント高い割合となっている。これまでの家事作業と同様に女性が財産管理の役割を担っている様子は確認されるが、他作業と比べてその差が減少しており、居住形態（一人暮らしか否か）等との関連からも捉える必要がある。

財産管理について、「よくする」「ときどきする」を合わせて「する」とした場合、「54～64 歳」において 71.7%、「65～74 歳」では 68.3%、「75 歳以上」では 65.7%であり、「75 歳以上」となると割合が低くなる。75 歳以上となると一般的には高齢独居者が増えるのではないかと想定されるが、これは食事や洗濯よりもさらに家庭経営の共同管理部分であるので、やはり、高齢になるほど世代交代が進んでいるものと考えられる。

表 5 1 性別 財産管理 （問 2 5 . 4）

	よくする	ときどき する	あまり しない	しない	無回答	合計
男性	180 32.2%	156 27.9%	131 23.4%	89 15.9%	3 0.5%	559 100.0%
女性	305 60.0%	101 19.9%	55 10.8%	40 7.9%	7 1.4%	508 100.0%
無回答	1 33.3%	1 33.3%	0	1 33.3%	0	3 100.0%
合計	486 45.4%	258 24.1%	186 17.4%	130 12.1%	10 0.9%	1070 100.0%

表 5 2 年齢別 財産管理 （問 2 5 . 4）

	よくする	ときどき する	あまり しない	しない	無回答	合計
55～64 歳	239 46.2%	132 25.5%	84 16.2%	59 11.4%	3 0.6%	517 100.0%
65～74 歳	185 48.2%	77 20.1%	75 19.5%	44 11.5%	3 0.8%	384 100.0%
75 歳以上	62 36.7%	49 29.0%	27 16.0%	27 16.0%	4 2.4%	169 100.0%
合計	486 45.4%	258 24.1%	186 17.4%	130 12.1%	10 0.9%	1070 100.0%

⑤孫の世話や保育

孫のいる人について、孫の世話や保育についてみると、「良くする」と「ときどきする」を合わせて「する」とした場合、全体の58.7%が「する」と答えている。

(注)同居の孫がいない場合は「非該当」とした(孫のいる人は全体の57.8%、614人、いない人は42.1%、452人)。

表 5 3 性別 孫の世話 (問 2 5 . 5)

	よくする	ときどき する	あまりし ない	しない	同居孫は いない	無回答	合計
男性	43 13.4%	119 37.1%	62 19.4%	78 24.3%	(236) —	19 5.9%	321 100.0%
女性	73 25.2%	123 42.4%	29 10.0%	45 15.5%	(216) —	20 6.9%	290 100.0%
無回答	1 33.3%	1 33.3%	0	1 33.3%	(0) —	0	3 100.0%
合計	117 19.1%	243 38.6%	91 14.8%	124 20.2%	(452) —	39 6.4%	614 100.0%

表 5 4 年齢別 孫の世話 (問 2 5 . 5)

	よくする	ときどき する	あまりし ない	しない	孫は いない	無回答	合計
55～64 歳	47 18.5%	110 43.3%	44 17.3%	38 15.0%	(262) —	15 5.9%	254 100.0%
65～74 歳	55 22.3%	91 36.8%	34 13.8%	50 20.2%	(134) —	17 6.9%	247 100.0%
75 歳以上	15 13.3%	42 37.2%	13 11.5%	36 31.9%	(56) —	7 6.2%	113 100.0%
合計	117 19.1%	243 39.6%	91 14.8%	124 20.2%	(452) —	39 6.4%	614 100.0%

⑥親や配偶者の介護 (問25⑥)

家族に「介護が必要な人がいる」と回答した人は37.8%と高い。その人が、実際に介護を「良くする」と「ときどきする」を合わせて「する」とした場合、全体の59.7%が「する」と答えている。やはり、何らかの形で介護に関わっている人の割合は高い。回答者全体の22.6%にも上っている。介護に手がかかるといったことは、高齢者の社会参加活動の直接的な阻害要因と考えられる。ただ、年齢別に見ると、55歳から64歳の、おそらくは自分の親の介護をしている年齢層では、「する：している」が7割(同

年齢層の回答者全体27.7%)の近くに達しているが、おそらくは配偶者の介護をしているであろう75歳以上では、「している」は4割弱、同年齢層の回答者全体に占める割合も14.8%にすぎないという特徴が見て取れる。今日、介護問題は、後期高齢層の老々介護が、老親介護と並ぶほどになってきているが、ここでは、中高年層の老親介護の問題としての表出が際立っているということである。(岩手県立大学社会福祉学部『岩手県の介護実態に関する調査研究報告書』2012.3等参照)

(注) 介護が必要な人がいない場合は「非該当」とした(家族の中に介護が必要な人がいないと回答した人は62.1%、666人)。

表 5 5 性別 親や配偶者の介護 (問 2 5 . 6)

	よくする	ときどきする	あまりしない	しない	介護の必要なし	無回答	合計
男性	40 19.4%	66 30.0%	39 18.9%	51 24.8%	(353) —	10 4.9%	206 100.0%
女性	83 42.1%	52 26.4%	18 9.1%	35 17.8%	(312) —	9 4.6%	197 100.0%
無回答	1 50.0%	0	0	1 50.0%	(1) —	0	2 100.0%
合計	124 30.6%	118 29.1%	57 14.1%	87 21.5%	(666) —	19 4.7%	405 100.0%

表 5 6 年齢別 介護 (問 2 5 . 6)

	よくする	ときどきする	あまりしない	しない	介護の必要なし	無回答	合計
55～64 歳	68 32.5%	75 35.9%	35 16.7%	24 11.5%	(308) —	7 3.3%	209 100.0%
65～74 歳	43 32.6%	31 23.5%	17 12.9%	33 25.0%	(253) —	8 6.1%	132 100.0%
75 歳以上	13 20.3%	12 18.8%	5 7.8%	30 46.9%	(105) —	4 6.3%	64 100.0%
合計	124 30.6%	118 29.1%	57 14.1%	87 21.5%	(666) —	19 4.7%	405 100.0%

⑦ペットの世話 (問25⑦)

「良くする」と「ときどきする」を合わせて「する」とした場合、全体の75.6%が「する」と答えている。⑤⑥⑦の中で最も高い割合となった。孫や親などの家族の世話とは比較できないが、なにか、日常的にすることがあって、それなりに忙しいという意味では、同じである。

(注) ペットがいない人がいない場合は「非該当」とした(ペットがいる人は、37.3%)。

表 5 7 性別 ペットの世話 (問 2 5 . 7)

	よくする	ときどき する	あまり しない	しない	ペットい ない	無回答	合計
男性	104 45.8%	64 28.2%	24 10.6%	25 11.0%	(332) —	10 4.4%	227 100.0%
女性	114 66.3%	19 11.0%	10 5.8%	19 11.0%	(337) —	10 5.8%	172 100.0%
無回答	0	0	0	0	(3) —	0	0
合計	218 54.6%	83 20.8%	34 8.5%	44 11.0%	(672) —	20 5.0%	399 100.0%

表 5 8 年齢別 ペットの世話のクロス表 (問 2 5 . 7)

	よくする	ときどき する	あまり しない	しない	ペット いない	無回答	合計
55～64 歳	123 60.6%	39 19.2%	24 11.8%	10 4.9%	(314) —	7 3.4%	203 100.0%
65～74 歳	72 53.7%	34 25.4%	6 4.5%	14 10.4%	(251) —	8 6.0%	134 100.0%
75 歳以上	23 37.1%	10 16.1%	4 6.5%	20 32.3%	(107) —	5 8.1%	62 100.0%
合計	218 54.6%	83 20.8%	34 8.5%	44 11.0%	(672) —	20 5.0%	399 100.0%

⑧庭・花壇・菜園の管理 (問25⑧)

「良くする」と「ときどきする」を合わせて「する」とした場合、全体の76.1%が「する」と答えている。いわゆる「庭いじり」「畑いじり」は、全国的にも、高齢者の家庭内労働あるいは余暇活動として、広範に行われていることが、再確認された。ただ、これなどは、社会活動と相反するものではなく、むしろ相乗効果があると考えられる。

庭の管理については、「よくする」において、男性よりも女性の方が 15.5 ポイント高い割合であり、女性が役割を担っている様子が確認されるが、他家事作業に比べて男女間の差は減少している。

庭の管理について、「よくする」「ときどきする」を合わせて「する」とした場合、「54～64 歳」において 74.1%、「65～74 歳」では 79.4%、「75 歳以上」では 74.6%であり、年齢による大きな差は見られない。しかし、「65～74 歳」において割合が高い状況にある。退職後の作業として、「75 歳以上」に比べて体力的な点からこの年齢層に割合が多くみられると考えられる。

表 5 9 性別 庭・花壇・菜園の管理 (問 2 5 . 8)

	よくする	ときどき する	あまり しない	しない	無回答	合計
男性	207 37.0%	193 34.5%	75 13.4%	77 13.8%	7 1.3%	559 100.0%
女性	267 52.5%	147 28.9%	44 8.6%	45 8.8%	6 1.2%	509 100.0%
無回答	1 33.3%	0	0	2 66.7%	0	3 100.0%
合計	475 44.4%	340 31.7%	119 11.1%	124 11.6%	13 1.2%	1071 100.0%

表 6 0 年齢別 庭・花壇・菜園の管理 (問 2 5 . 8)

	よくする	ときどき する	あまり しない	しない	無回答	合計
55～64 歳	201 38.9%	182 35.2%	64 12.4%	64 12.4%	6 1.2%	517 100.0%
65～74 歳	188 48.8%	118 30.6%	40 10.4%	34 8.8%	5 1.3%	385 100.0%
75 歳以上	86 50.9%	40 23.7%	15 8.9%	26 15.4%	2 1.2%	169 100.0%
合計	475 44.4%	340 31.7%	119 11.1%	124 11.6%	13 1.2%	1071 100.0%

⑨ゴミ捨て・ゴミ処理 (問25⑨)

「良くする」と「ときどきする」を合わせて「する」とした場合、全体の84.7%が「する」と答え①～⑨の中で最も高い割合となった。

ゴミ処理について、「よくする」において、男性よりも女性の方が 16.3%高い割合を示しており、女性が役割を担っていることが分かるが、「ときどき」も含めるとほぼ同じで、他の家事作業に比べて男女間の差は減少している。

ゴミ処理について「よくする」「ときどきする」を合わせて「する」とした場合、「54～64 歳」において 85.8%、「65～74 歳」では 83.9%、「75 歳以上」では 84.0%であり、年齢による差は見られない。

表 6 1 性別 ごみ処理 (問 2 5 . 9)

	よくする	ときどき する	あまり しない	しない	無回答	合計
男性	280 50.1%	161 28.8%	59 10.6%	55 9.8%	4 0.7%	559 100.0%
女性	389 76.4%	76 14.9%	22 4.3%	21 4.1%	1 0.2%	509 100.0%
無回答	1 33.3%	0	1 33.3%	1 33.3%	0	3 100.0%
合計	670 62.6%	237 22.1%	82 7.7%	77 7.2%	5 0.5%	1071 100.0%

表 6 2 年齢別 ごみ処理 (問 2 5 . 9)

	よくする	ときどき する	あまり しない	しない	無回答	合計
55～64 歳	325 62.9%	117 22.6%	40 7.7%	32 6.2%	3 0.6%	517 100.0%
65～74 歳	248 64.4%	75 19.5%	33 8.6%	27 7.0%	2 0.5%	385 100.0%
75 歳以上	97 57.4%	45 26.6%	9 5.3%	18 10.7%	0 0.0%	169 100.0%
合計	670 62.6%	237 22.1%	82 7.7%	77 7.2%	5 0.5%	1071 100.0%

X.生活満足度 (問 26)

現在の生活の満足度を聞いてみた。「満足している」「まあ満足している」を合わせて「満足している」とすると、全体の73.0%が生活に満足していると答えている。それでも、「不満足」は、「満足していない」「あまり満足していない」を含めて、26%と、4分の1を超える。

男女別にみると、「満足している」において、女性の方が 6.5 ポイント高い割合となり、女性の方が生活への満足感が高いといえる。

生活満足度については、年齢による大きな差はみられない。

表 6 3 性別 生活満足度

	満足して いる	まあ満足 している	あまり満足し ていない	満足して いない	不明	合計
男性	67 12.0%	327 58.6%	114 20.4%	44 7.9%	6 1.1%	558 100.0%
女性	94 18.5%	291 57.3%	93 18.3%	27 5.3%	3 0.6%	508 100.0%
不明	0	3 100.0%	0	0	0	3 100.0%
合計	161 15.1%	621 58.1%	207 19.4%	71 6.6%	9 0.8%	1069 100.0%

表 6 4 年齢別 生活満足度

	満足して いる	まあ満足して いる	あまり満足し ていない	満足して いない	不明	合計
55～64 歳	72 14.0%	295 57.2%	106 20.5%	40 7.8%	3 0.6%	516 100.0%
65～74 歳	62 16.1%	227 59.1%	74 19.3%	17 4.4%	4 1.0%	384 100.0%
75 歳以上	27 16.0%	99 58.6%	27 16.0%	14 8.3%	2 1.2%	169 100.0%
合計	161 15.1%	621 58.1%	207 19.4%	71 6.6%	9 0.8%	1069 100.0%

X I コミュニティとのかかわり

(1) 町内会活動への関わり (問 27)

町内会や自治会は、地縁型社会組織の中でも、最も一般的で加入率も、他の組織に比べればかなり高いのが一般的である。活動内容も、自治会ごとの任意の活動も多くあるが、防犯、防災、地域の安全・管理、ゴミなどの地域環境、情報伝達、互助・見守り・助け合いなど、地域生活を維持していく上で、不可欠の内容を多く含んでおり、住民にとってはそれだけ身近な存在でもあるし、一面では、住民としての義務的な要素も含んでいる。

活動状況を見てみると、町内会活動にかかわっていない人が22.9%いる。町内会活動は、世帯単位で参加していることが多く、世帯内での役割分担と関連していることが多いので、この回答が、必ずしも、世帯として参加していないということではない。関わり方は「どちらかというと積極的」「どちらかというと消極的」の中間の選択肢に集中し、「非常に積極的」「非常に消極的」の回答が少ない

といった、山型の回答分布になっている。

男女別にみると、「積極的に関わっている」では8.1ポイント、「どちらかというと積極的に関わっている」では8.0ポイント、併せて16ポイント、男性の方が女性よりも割合として高く、自治会活動に積極的に関わっている様子が確認される。ちなみに「かかわっていない」という回答では、女性のほうが6.6ポイント高い割合となっており、これら状況から自治会活動の場は、男性のかかわりが求められている場となっていると思われる。

年齢別にみると、「積極的にかかわっている」「どちらかというと積極的に」を合わせて「積極的」とした場合、「54～64歳」では35.6%、「65～74歳」では42.3%、「75歳以上」では38.4%であり、

表 6 5 性別 自治会活動

	積極的に かかわって いる	どちらか という と積極的	どちらか という と消極的	消極的に かかわって いる	かかわって いない	不明	合計
男性	64 11.4%	194 34.7%	153 27.4%	35 6.3%	110 19.7%	3 0.5%	559 100.0%
女性	17 3.3%	136 26.7%	173 34.0%	43 8.4%	134 26.3%	6 1.2%	509 100.0%
不明	0	1 33.3%	0	1 33.3%	1 33.3%	0	3 100.0%
合計	81 7.6%	331 30.9%	326 30.4%	79 7.4%	245 22.9%	9 0.8%	1071 100.0%

表 6 6 年齢別 自治会活動

	積極的に かかわって いる	どちらか という と積極的	どちらか という と消極的	消極的に かかわって いる	かかわって いない	不明	合計
55～64 歳	31 6.0%	153 29.6%	173 33.5%	44 8.5%	111 21.5%	5 1.0%	517 100.0%
65～74 歳	41 10.6%	122 31.7%	110 28.6%	25 6.5%	83 21.6%	4 1.0%	385 100.0%
75 歳以上	9 5.3%	56 33.1%	43 25.4%	10 5.9%	51 30.2%	0 0.0%	169 100.0%
合計	81 7.6%	331 30.9%	326 30.4%	79 7.4%	245 22.9%	9 0.8%	1071 100.0%

「65～74歳」において他年齢層と差が認められ、高い割合を示している。その理由としては、この年齢層は、退職後であり、かつ高齢による世代交代前の年齢であるということから自治会での役割期待が一般的に高くなるということが考えられる。

(2) 年齢集団との関わり (問28)

地域内の年齢集団（老人クラブ、婦人会など）も、町内会、自治会同様、全国どこにでもある社会組織である。その活動内容も、楽しみ・交流だけでなく、互助や助け合い、学習活動など多岐にわたっていることが一般的である。行政の支援も有り、中高齢者の社会参加活動の大きな受け皿の1つとなっている。しかし、近年は、加入率が下がる傾向にあり、社会参加活動の個人化が指摘されているのが現状である。

調査結果をみると、こうした地域の年齢集団の活動にかかわっていない（「入っていない」）人が61.7%もいる。これは、回答者の年齢が、相対的に若いということが影響している。こちら、町内会活動と同様に、「どちらかと言う積極的」「どちらかというと消極的」に集中し、「非常に積極的」「非常に消極的」の回答が少ないといった山型分布の傾向がみてとれる。

男女別にみると、「入っていない」割合が、男性は64.9%、女性は58.2%と6.7ポイントと男性の方が高い割合を示しており、自治会活動の参加とは反対に男女で状況が逆転している。「積極的に関わっている」「どちらかと言えば積極的」を合わせ「積極的」とすると、男性は17.9%、女性は20.6%と、その差は2.7ポイントであり、大きな差は認められないが、「どちらかというと消極的」「消極的に関わっている」を合わせ「消極的」とすると、男性は15.9%、女性は20.9%と5.0ポイント、女性の方が割合として高い。地域において、自治会活動と年齢集団への参加状況は、「積極的」「消極的」といった関わり方の違いというよりも、地域へのかかわりの場面といった点で男女による住み分けが行われているのかもしれない。

年齢別にみると、年齢が上がるにつれ積極的なかかわりがみられるようになる。これは、自治会活動とは異なり、「年齢集団」ということで、引退等を考える必要が無く、年齢にあった活動が提供されている結果と言えるのではないか。

表 6 7 性別 地域の年齢集団

	積極的にかかわっている	どちらかという積極的	どちらかという消極的	消極的にかかわっている	入っていない	不明	合計
男性	26 4.7%	74 13.2%	75 13.4%	14 2.5%	363 64.9%	7 1.3%	559 100.0%
女性	16 3.1%	89 17.5%	92 18.1%	14 2.8%	296 58.2%	2 0.4%	509 100.0%
不明	0	1 33.3%	0	0	2 66.7%	0	3 100.0%
合計	42 3.9%	164 15.3%	167 15.6%	28 2.6%	661 61.7%	9 0.8%	1071 100.0%

表 6 8 年 齢 別 地 域 の 年 齢 集 団

	積極的に かかわって いる	どちらかと いうと積極 的	どちらかとい うと消極的	消極的にかか わっている	入っていない	不明	合計
55～64 歳	8 1.5%	61 11.8%	61 11.8%	9 1.7%	373 72.1%	5 1.0%	517 100.0%
65～74 歳	19 4.9%	65 16.9%	71 18.4%	15 3.9%	212 55.1%	3 0.8%	385 100.0%
75 歳以上	15 8.9%	38 22.5%	35 20.7%	4 2.4%	76 45.0%	1 0.6%	169 100.0%
合計	42 3.9%	164 15.3%	167 15.6%	28 2.6%	661 61.7%	9 0.8%	1071 100.0%

X II 社会・団体活動編

(1) 団体活動への参加（問 29）（複数回答）

町内会や年齢集団は、当該住民のすべてを対象にしている社会組織であり、また、そのことは、活動内容が地域の共同生活に不可欠なものを含んでいることと併せて、加入や活動が、社会的義務を帯びたものになっている。

それに対して、次にみるのは、領域的なことは問わず、個人の関心と意思にもとづいて、自由に加入し、活動できる任意団体の活動について見たものである。これらは、アソシエーションと呼ばれており、その形態も、サークル的なものから、NPO、協同組合、特定法人など、多様なものがあると思われる。

そうした活動に関わる何らかの団体の活動に、全く参加していない人は 49.3%、参加している人は、51%である。かなり高い。本県の中高齢者の多くが、なんらかの任意団体活動に参加しているということである。参加している団体の種類では、「健康・スポーツの団体の活動」が最も高く 22.3%（回答率：回答者全体に占める割合、以下同じ）、次いで「趣味の団体」が 13.1%、「生活環境改善団体の活動」が 12.5%、「（交通、防犯などの）安全・管理」10.9%など、かなり多岐にわたっている。

男女間で差が見られたのは、「趣味」の団体の活動であり、女性の方が 11.4 ポイント高い割合となっている。これは女性型ともいえるものである。一方で、男性の方が高い割合をしめしているものとして、「生活環境改善（環境美化、まちづくりなど）」の団体活動があり 9.1 ポイントの差、次いで「安全管理」の団体の活動で 7.1 ポイントの差である。これら男性型は、どちらかと言えばやや地域の義務的な活動である。後にみる「特に熱心に参加している活動」も同様であるが、女性は「対自分」の活動（自分の楽しみ、自分の体のことなど）、男性の方が「対社会」の活動（地域のやや義務的、協同的活動）などを求める傾向がうかがえる。

双方に共通して高いのは「健康・スポーツ」で、いずれも参加率が 2 割を超えている。

表 6 9 性別 団体活動の参加（複数回答）

	趣味	健康・スポーツ	生産活動	教育関連	生活環境改善	安全管理	高齢者の支援	子育て支援	その他 1
男性	42 7.7%	120 21.9%	52 9.5%	49 8.9%	92 16.8%	78 14.2%	14 2.6%	6 1.1%	24 4.4%
女性	94 19.1%	112 22.8%	30 6.1%	32 6.5%	38 7.7%	35 7.1%	23 4.7%	11 2.2%	11 2.2%
合計	136 13.1%	232 22.3%	82 7.9%	81 7.8%	130 12.5%	113 10.9%	37 3.6%	17 1.6%	35 3.4%

参加なし	その他 2	合計
258 47.1%	7 1.3%	548 100.0%
255 51.8%	5 1.0%	492 100.0%
513 49.3%	12 1.2%	1040 100.0%

年齢別の特徴をみると、いずれの団体活動にも参加しない割合は、55－64 歳で 55.6%、65－74 歳で 43.2%、75 歳以上で 45.4%で、年齢との相関はみられない。もちろん、ここで見たのは、団体活動としての、なんらかの社会的な意味合いをもった活動のことであって、これらの活動に参加しない人が、すべて「閉じこもったり」、不活発であったりしている訳ではない。私的な活動はまたそれなりにされているのであろう。

参加している人についてみると、男性のほうが参加割合が高い、「生活環境改善」、「地域の安全管理」、「教育関連（学習会、こどもの健全育成、文化伝承）」などは、すでに指摘したようにやや義務的なものであるが、これらは、年齢が高くなっても参加割合は下がらない。それに対して、「趣味」や「生産」活動は、やはり時間的なゆとりが必要なのか、やや、年齢が高くなるにつれて、参加割合が高くなる傾向がみられる。ただ「健康・スポーツ」については、64 歳以下では、19%であるが、65～74 歳で 27%、75 歳以上 23%で、65 歳を境に高くなっている。「健康・スポーツ」については、男女差はないので、やはり 65 歳前後が、「老後の健康」を意識するきっかけとなり、実際に、なんらかの活動に参加する区分点となっていると思われる。

表 7 0 年齢別 団体活動の参加（複数回答）

	趣味	健康・ スポーツ	生産 活動	教育 関連	生活環境 改善	安全 管理	高齢者の 支援	子育て 支援	その他 1
55～64 歳	51 10.1%	95 18.8%	30 5.9%	36 7.1%	59 11.7%	52 10.3%	11 2.2%	9 1.8%	15 3.0%
65～74 歳	59 15.7%	101 26.9%	33 8.8%	30 8.0%	57 15.2%	43 11.5%	16 4.3%	5 1.3%	15 4.0%
75 歳以上	26 16.0%	37 22.7%	20 12.3%	16 9.8%	14 8.6%	18 11.0%	10 6.1%	3 1.8%	5 3.1%
合計	136	233	83	82	130	113	37	17	35

参加なし	その他 2	合計
278 55.0%	6 1.2%	505
162 43.2%	5 1.3%	375
74 45.4%	1 0.6%	163
514	12	1043

（２）活動回数（問 30）

次に、こうした任意的な活動の頻度はどれほどのものであるのかを次にみてみる。

なんらかの活動に参加している人について、問 30 で答えてもらった団体の活動回数を合計したものをみると、全体としては活動回数・頻度はバラけている。その中では、「月 2～3 回」が最も多く 25.1%、次いで「週 2～3 回」が 21.4%であった。「週 1 回」は 13.5%あり、これと「週 2～3 回」とを合わせると、約 35%になる。何らかの活動をしている人の 3 分の 1 強は、週に 1 回以上は活動しているということになる。

次に、積極的に関わっている活動について参加頻度の男女差をみると、「週 1 回」の回答割合は、8.5 ポイント（%）、女性の方が割合として高く、「毎週どこか行くところがある」という意味では、女性の方が引きこもり回避を図っているのかもしれない。男性は、やはり週 2, 3 回以上活動している人は、女性より少ないが、それでも約 3 割に上っている。その一方、月に 1 回以下の活動回数の低い人の割合は、39%、4 割弱あり、女性の 28.0%を大きく上回っている。女性は月 2, 3 回以上の人は 6 割を超えていて、おしなべて活動率は高い傾向を示しているのに対して、男性の方は、よく言われているように、やや活動性の高い人と低い人に分化しているように思われる。

表 7 1 性別 参加頻度

	週 1 回	週 2～3 回	月 2～3 回	月 1 回	年 5～6 回	年 1～2 回	活動してない	不明	合計
男性	29 9.6%	66 21.9%	77 25.6%	42 14.0%	51 16.9%	25 8.3%	(258)	11 3.7%	301 100.0%
女性	46 18.1%	53 20.9%	62 24.4%	32 12.6%	23 9.1%	16 6.3%	(255)	22 8.7%	254 100.0%
不明	0	0	1 50.0%	0	0	1 50.0%	(1)	0	2 100.0%
合計	75 13.5%	119 21.4%	140 25.1%	74 13.3%	74 13.3%	42 7.5%	(514)	33 5.9%	557 100.0%

年齢別で見ると、「週一回」は、55 歳～64 歳で 15.5%、65～74 歳 13.0%、75 歳以上 9.5%と、年齢が若いほど活動回数が多くなるという傾向が見られる。これは、健康・体力面での理由か、時間的なことかわからない。それは、「週 1 回」以外は、年齢との相関は全くみられないからである。

表 7 2 年齢別 参加頻度

	週 1 回	週 2～3 回	月 2～3 回	月 1 回	年 5～6 回	年 1～2 回	活動してない
55～ 64 歳	37 15.5%	38 15.9%	59 24.7%	31 13.0%	44 18.4%	20 8.4%	(278)
65～74 歳	29 13.0%	63 28.3%	56 25.1%	27 12.1%	19 8.5%	16 7.2%	(162)
75 歳以上	9 9.5%	18 18.9%	25 26.3%	16 16.8%	11 11.6%	6 6.3%	(74)
合計	75 13.5%	119 21.4%	140 25.1%	74 13.3%	74 13.3%	42 7.5%	(514)

不明	合計
10 4.2%	239 100.0%
13 5.8%	223 100.0%
10 10.5%	95 100.0%
33 5.9%	557 100.0%

（３）熱心に参加している団体（問 31）は、「健康・スポーツ」と「趣味」

全く活動に参加していない５割弱の人を除いて、参加している団体活動の数や、活動回数は、かなり多いということがわかったが、その中で、最も熱心に参加している団体は何かを聞いた。

最も多かったのは、「健康・スポーツの団体」で 27.3%であった。次いで、「趣味の団体」で 15.6%であった。福祉的な機能を持つ団体の活動であると考えられる「高齢者支援の団体」「子育て支援の団体」「子育て支援・高齢者支援以外の福祉団体」等は、低い割合となっている。

参加している活動の内容について、男女間の顕著な差が見られたのは「趣味」であり、男性が 8.3%であるのに対して、女性は 24.4%と 16.1ポイントの女性のほうが高い割合を示している。一方で、「生活環境改善」においては、男性が 13.6%、女性が 5.9%と男性の方が 7.7ポイント高くなっている。女性の方が「対自分」の活動を重視するのに対して、男性の場合は「対社会」の活動を重視しているといえるかもしれない。これらは、それぞれ、女性型、男性型とでも言うべきものであるが、男女双方に共通して高い参加率を示しているものは「健康」（男性 28.2%。女性 26.0%）である。やはり健康は性別に関係なく、高齢者の強い関心事であるということである。

表 7 3 性別 特に熱心に参加しているもの

	趣味	健康・ スポーツ	生産活動	教育関連	生活環境 改善	安全管理	高齢者の 支援	子育て支 援
男性	25 8.3%	85 28.2%	27 8.9%	22 7.3%	41 13.6%	38 12.6%	1 .3%	0 .0%
女性	62 24.4%	66 26.0%	11 4.3%	15 5.9%	15 5.9%	12 4.7%	5 2.0%	3 1.2%
不明	0 .0%	1 50.0%	1 50.0%	0 .0%	0 .0%	0 .0%	0 .0%	0 .0%
合計	87 15.6%	152 27.3%	39 7.0%	37 6.6%	56 10.1%	50 9.0%	6 1.1%	3 0.5%

その他	特になし	活動なし	不明	合計
35 11.6%	2 0.7%	(258)	25 8.3%	301 100.0%
26 10.2%	6 2.3%	(255)	33 13.0%	254 100.0%
0 .0%	0 .0%	(1)	0 .0%	2 100.0%
61 11.0%	8 1.4%	(514)	58 10.4%	557 100.0%

「生活環境改善」や「地域の安全管理」などやや義務的なものは、55～64歳層で高いということを除くと、年齢との相関はみられない。どのような活動に参加するかは、男女の違い以外は、加齢とはあまり関係なく、やはり個人的な興味や関心が、つよく影響しているようにおもわれる。

表 7 4 年齢別 特に熱心に参加しているもの

	趣味	健康・ スポーツ	生産 活動	教育 関連	生活 環境改善	安全 管理	高齢者 の支援	子育て 支援	その他
55～64 歳	34 14.2%	60 25.1%	14 5.9%	22 9.2%	30 12.6%	25 10.5%	4 1.7%	2 0.8%	23 9.6%
65～74 歳	39 17.4%	70 31.4%	16 7.2%	9 4.0%	22 9.9%	16 7.2%	1 0.4%	0 0.0%	28 7.0%
75 歳以上	14 14.7%	22 23.2%	9 9.5%	6 6.3%	4 4.2%	9 9.5%	1 1.1%	1 1.1%	10 10.5%
合計	87 15.6%	152 27.3%	39 7.0%	37 6.6%	56 10.1%	50 9.0%	6 1.1%	3 0.5%	61 11.0%

特に なし	活動して ない	不明	合計
3 1.3%	(278)	22 9.2%	239 100.0%
2 0.9%	(162)	20 9.0%	223 100.0%
3 3.2%	(74)	16 16.8%	95 100.0%
8 1.4%	(514)	58 10.4%	557 100.0%

(4) 参加開始時期 (問 32) 活動歴は長くない

問31で答えた熱心に参加している団体での活動の参加開始時期については、「退職してから」が最も多く33.3%であった。次いで「若い頃から」が14.0%であった。生涯活動歴はあまり長くない傾向がみられる。他回答は10%に満たなかった。

参加開始時期について、男女間に差がみられたのは「退職してから」で、男性40.5%、女性24.9%と男性の方が15.6ポイント高い割合を示している。これは、いわゆる「仕事人間」として、男性が就業を中心とした生活を送ってきて結果とも考えられる。一方、「若いころから」「結婚してから」は、それぞれが、男性19.9%、9.5%、併せて29.4%、女性6.8%、7.6%、併せて14.4%で、20、30歳代の比較的若いときからの活動歴を有しているのは、男性の方が15ポイント高くなっている。女性の場合は、やはり「子どもが自立してから」(14.5%)「子育てが終わってから」(11.2%)「子どもをもって

から」(8.8%)を合わせると34.5%で3割を大きく超え、男性(同14.2%)よりも20ポイント以上高くなっている。いずれにしても、男性に比べ女性は子育てがきっかけだったり、子育ての制約から解き放たれたりして、活動を始めたことが読み取れる。

また年齢別の特徴をみると、50－64歳の比較的若い世代ほど、「若いときから」、「結婚してから」、「子どもをもってから」など、比較的若い時に活動を始めた人の割合(47.0%)が、半数弱になっている。若い時から、自分がやりたい活動にこだわり、結婚や子育てと両立を図ってきたことがうかがわれる。

表 7 5 性別 参加開始時期

	若いころ から	結婚して から	子どもを もってか ら	子育てが 終わって から	子どもが 自立して から	退職して から	その他	活動して ない	不明	合計
男性	59 19.9%	28 9.5%	14 4.7%	15 5.1%	13 4.4%	120 40.5%	22 7.4%	(258)	25 8.4%	296 100.0%
女性	17 6.8%	19 7.6%	22 8.8%	28 11.2%	36 14.5%	62 24.9%	17 6.8%	(255)	48 19.2%	249 100.0%
不明	1 50.0%	0	0	0	1 50.0%	0	0	(1)	0	2 100.0%
合計	77 14.0%	47 8.6%	36 6.6%	43 7.9%	50 9.1%	182 33.3%	39 7.1%	(514)	73 13.3%	547 100.0%

表 7 6 年齢別 参加開始時期

	若いころ から	結婚して から	子どもを もってから	子育てが 終わってか ら	子どもが 自立してか ら	退職して から
54～64 歳	52 22.0%	34 14.4%	25 10.6%	20 8.5%	19 8.1%	46 19.5%
65～74 歳	16 7.4%	10 4.6%	10 4.6%	14 6.5%	21 9.7%	99 45.6%
75 歳以上	9 9.6%	3 3.2%	1 1.1%	9 9.6%	10 10.6%	37 39.4%
合計	77 7.3%	47 4.4%	36 3.4%	43 4.1%	50 4.7%	182 17.2%

その他	活動してない	不明	合計
15 6.4%	(278)	25 10.6%	236 100.0%
18 8.3%	(162)	29 13.4%	217 100.0%
6 6.3%	(74)	19 20.2%	94 100.0%
39 3.7%	(514)	73 6.9%	547 100.0%

(5) 参加する理由 (問 33) (複数回答) は多様、複合的である。

問 31 で答えた熱心に参加している団体の活動に参加する理由としては、「生活に充実感を持たせたから」が 41.4%、次いで「健康や体力に自信をつけたいから」が 35.8%、「新しい友人を得たいから」19.2%、「社会の見方を広げたいから」17.8%など、利己的、個人的な理由が上位を占めている。一方、「社会に貢献したいから」23.0%、「自分の技術、経験を生かしたいから」21.4%、「人の役に立ちたいから」20.6%など社会的な理由もかなりある。

男女間において大きな差が見られたのは、「社会に貢献したいから」であり、男性の方が 20.7 ポイント高い割合となり、「社会の一員として」においても、7.9 ポイント男性の方が高い割合となった。これに「人の役に立ちたいから」(男性 24.6%、女性 15.4%)を加えた社会的理由は、男性が女性を大きく上回っている。

一方で、女性の方が高い割合を示したものとしては、「生活の充実感」であり、13.3 ポイントの差がみられ、次いで「健康や体力に自信をつけたいから」が 8.7%、「友人づくり」においては、5.3 ポイント差がみられた。男性の方が、「社会」に対する責任や義務といった側面から団体活動を捉えるのに対して、女性の方が、自分自身もしくは自分の周囲との関係を維持するために活動を選んでいる様子がうかがえる。

年齢別にみると、「65～74 歳」において「友人づくり」が、他年齢層に比べ高い割合となっている。「社会貢献」「社会の役に立ちたい」では年齢とともに減少している傾向にある。それ以外では、年齢との相関はみられない。「65～74 歳」において「友人作り」の割合が高い理由としては、退職後、職域以外での友人作りが求められていると考えられる。「社会貢献」「社会の役に立ちたい」といった点が年齢とともに減少傾向にあるが、「経験を生かしたい」という点が「75 歳以上」で増加傾向にあるといった点にも注目するならば、前者は、広い意味での「社会」を想定しており、後者は、年齢が上がるにつれ、対社会というよりはより小さな範囲(地域社会)での貢献、もしくは友人・家族といった関係性の中での経験をいかしたいという気持ちの表れではないだろうか。

表 7 7 性別 団体活動の参加理由（複数回答）

	生活の 充実感	経験生かす ため	友人づくり	視野の 拡大	社会の 一員	健康・ 体力	社会貢献	友人の勧め
男性	101 35.6%	61 21.5%	48 16.9%	54 19.0%	52 18.3%	91 32.0%	91 32.0%	36 12.7%
女性	108 48.9%	47 21.3%	49 22.2%	36 16.3%	23 10.4%	90 40.7%	25 11.3%	43 19.5%
合計	209 41.4%	108 21.4%	97 19.2%	90 17.8%	75 14.9%	181 35.8%	116 23.0%	79 15.6%

役立ちたい	義務	その他	合計
70 24.6%	63 22.2%	5 1.8%	284 100.0%
34 15.4%	10 4.5%	8 3.6%	221 100.0%
104 20.6%	73 14.5%	13 2.6%	505 100.0%

表 7 8 年齢別 団体参加の活動理由（複数回答）

	生活の 充実感	経験生かす ため	友人 づくり	視野の 拡大	社会の 一員	健康・体力	社会貢献	友人の 勧め
55～64 歳	87 39.4%	51 23.1%	33 14.9%	39 17.6%	31 14.0%	68 30.8%	60 27.1%	26 11.8%
65～74 歳	90 43.9%	37 18.0%	48 23.4%	33 16.1%	32 15.6%	84 41.0%	41 20.0%	39 19.0%
75 歳以上	32 39.5%	20 24.7%	16 19.8%	18 22.2%	12 14.8%	29 35.8%	15 18.5%	15 18.5%
合計	209 41.4%	108 21.4%	97 19.2%	90 17.8%	75 14.9%	181 35.8%	116 23.0%	79 15.6%

役立ち たい	義務	その他	合計
50 22.6%	28 12.7%	7 3.2%	221 100.0%
38 18.5%	34 16.6%	5 2.4%	205 100.0%
16 19.8%	12 14.8%	2 2.5%	81 100.0%
104 20.6%	73 14.5%	14 2.8%	505 100.0%

(6) 充実度（問34）充実感は高い

問31で答えた熱心に参加している活動の充実度について、最も割合が高いのは「まあ充実している」で63.7%、これに「非常に充実している」24.5%を加えると88.2%にも上り、大半の人が活動内容に充実感を得ていることが分かる。

男女別にみると、「非常に充実」と「まあ充実」を合わせ「充実」とすると、男性が90.4%、女性が85.4%と5.0ポイントの差がみられ、男性の方が充実感を持っているといえる。

表 7 9 性別 活動の充実度

	非常に充実	まあ充実	あまり充実 していない	充実してい ない	非該当	不明	合計
男性	74 24.7%	197 65.7%	14 4.7%	1 .3%	(258)	14 4.7%	300 100.0%
女性	62 24.4%	155 61.0%	8 3.1%	0	(255)	29 11.4%	254 100.0%
不明	0	2 100.0%	0	0	(1)	0	2 100.0%
合計	136 24.5%	354 63.7%	22 4.0%	1 0.2%	(514)	43 7.7%	556 100.0%

活動自体の充実感は、「非常に充実」と「まあ充実」を合わせた『充実』は、年齢別に大きな差異は見られないが、「非常に充実」は、年齢が高くなるほど割合が高くなっている。

表 8 0 年齢別 活動の充実度

	非常に 充実	まあ充実	あまり充実 していない	充実してい ない	非該当	不明	合計
55～64 歳	52 21.8%	166 69.5%	8 3.3%	0	(278)	13 5.4%	239 100.0%
65～74 歳	57 25.7%	136 61.3%	10 4.5%	1 0.5%	(162)	18 8.1%	222 100.0%
75 歳以上	27 28.4%	52 54.7%	4 4.2%	0	(74)	12 12.6%	95 100.0%
合計	136 24.5%	354 63.7%	22 4.0%	1 0.2%	(514)	43 7.7%	556 100.0%

(7) 活動に参加していない理由（複数回答）（問35）は 改善の余地が大きい

活動に参加していない人にその理由を聞いたところ、最も多かったのが「仕事をしているから」で42.6%、問32の活動開始時期において「退職してから」が一番多かった点とも一致する。やはり仕事をしているうちはなかなか、活動と両立しないといえる。次いで多いのが、「なんとなく面倒だから」といった漠然とした理由であり、21.0%であった。「健康に自信がない」も19.4%で比較的高い。

そのほか、回答は多様であるが、「活動を知らない」「気軽に参加できるものがない」「活動したいものがない」「なんとなく面倒くさい」「必要な技術、経験がない」「移動の手段がない」などは、改善の余地が大いにあるものである。

団体活動に参加しない理由について、男女間において最も差がみられるものは「仕事」であり、男性の方が15.0ポイント高い割合となり、次いで、「家庭の事情」では、女性の方が11.6ポイント高い割合となった。仕事中心で生活が成り立っている男性と、家庭中心で生活が成り立っている女性といった点が影響していると考えられる。

注目すべき点として「75歳以上」における「健康自信なし」の増加であろう。「健康に自信がない」は、加齢に相関して年齢とともに高くなる傾向が見られるが、75歳以上でその高さが際立っている。また、「移動手段がない」も、年齢が高くなるほど割合が高くなっている。

一方、「65～74歳」において、「家庭の事情」が増えている理由としては、退職後に家庭の役割が期待されているといったこと（「65～74歳」において「仕事」の割合が高いことから考えられる）、また「75歳以上」となると一人暮らしが増えてくるといった点が関係していると考えられる。また「気軽に出来る活動なし」は若いほど忙しいので気軽にできるものを求める傾向にあり、その要求は年齢とともに減少としている。また「活動自体を知らない」も同じ傾向にあり、活動の周知の面でも比較的若い人に、情報が届いていないことが考えられる。

「活動に参加しよう」と思う場合、精神的負担はないが、高齢社会であることを考えると、まずは「健康自信なし」の不安を払しょくする活動内容の提供が求められる。

表 8 1 性別 団体活動に参加しない理由（複数回答）

	活動知らない	経費・手間	なんとなく面倒	人間関係面倒	気軽さなし	技術・経験なし	家庭の事情	仕事
男性	41 16.5%	11 4.4%	58 23.3%	29 11.6%	36 14.5%	15 6.0%	18 7.2%	128 51.4%
女性	37 14.8%	21 8.4%	50 20.0%	38 15.2%	41 16.4%	19 7.6%	47 18.8%	91 36.4%
合計	78 15.6%	32 6.4%	108 21.6%	67 13.4%	77 15.4%	34 6.8%	65 13.0%	219 43.9%

健康自信なし	期待はずれ経験	したいものがない	移動手段なし	必要性なし	その他	合計
41 16.5%	7 2.8%	37 14.9%	9 3.6%	43 17.3%	12 4.8%	249 100.0%
56 22.4%	12 4.8%	28 11.2%	31 12.4%	19 7.6%	7 2.8%	250 100.0%
97 19.4%	19 3.8%	65 13.0%	40 8.0%	62 12.4%	19 3.8%	499 100.0%

表 8 2 年齢 団体活動に参加しない理由（複数回答）

	活動知らない	経費・手間	なんとなく面倒	人間関係面倒	気軽さなし	技術・経験なし	家庭の事情	仕事
55～64 歳	48 17.8%	19 7.1%	59 21.9%	36 13.4%	51 19.0%	13 4.8%	28 10.4%	166 61.7%
65～74 歳	25 15.8%	8 5.1%	36 22.8%	22 13.9%	19 12.0%	14 8.9%	29 18.4%	37 23.4%
75 歳以上	5 6.8%	5 6.8%	13 17.8%	9 12.3%	7 9.6%	7 9.6%	8 11.0%	16 21.9%
合計	78 15.6%	32 6.4%	108 21.6%	67 13.4%	77 15.4%	34 6.8%	65 13.0%	219 43.9%

健康 自信なし	期待はず れ経験	したいも のがない	移動手段 なし	必要性 なし	その他	合計
33 12.3%	8 3.0%	34 12.6%	15 5.6%	39 14.5%	10 3.7%	269 100.0%
33 20.9%	6 3.8%	17 10.8%	14 8.9%	18 11.4%	8 5.1%	158 100.0%
32 43.8%	5 6.8%	14 19.2%	11 15.1%	5 6.8%	1 1.4%	73 100.0%
98 19.4%	19 3.8%	65 13.0%	40 8.0%	62 12.4%	19 3.8%	500 100.0%

（８）参加したい活動（活動に参加していない人）（問36）

活動に参加していない人に、どのような活動であれば参加したいのかを聞いたところ、「参加が自由である活動」が最も多く21.9%、次いで「人間関係が煩わしくない活動」が18.8%、「初心者でも楽しめる」10.7%、「一人でもできる」10.2%、「年齢に関係なく楽しめる」9.4%、「お金がかからない」7.4%などとなっている。これは、「参加しない理由」と表裏一体のものであるが、ちょっとした工夫があれば対応が出来るものばかりである。また、「参加したくてもできない」（4.5%）も条件付き参加希望者なのでやはり、条件に配慮した工夫ということであろう。

参加したい活動については、男女間では目立った差は確認されなかった。また年齢別でみると、参加したい活動と年齢との相関はあまり見られないが、「参加が自由である活動」と「初心者でも楽しめる」は、年齢が低い層ほど高い割合を示している。先に見たように、この辺は、世代ごとの価値観の違いが浮き彫りになっている。

表 8 3 性別 参加したい活動のクロス表

	お金がか からない	一人でも できる	移動が不便 ではない	初心者でも 楽しめる	参加が自由	年齢に関係 なく楽しめ る	人間関係が わずらわし くない
男性	18 7.0%	23 8.9%	8 3.1%	19 7.4%	65 25.3%	25 9.7%	59 23.0%
女性	20 7.9%	29 11.4%	15 5.9%	36 14.2%	47 18.5%	23 9.1%	37 14.6%
不明	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	38 7.4%	52 10.2%	24 4.7%	55 10.7%	112 21.9%	48 9.4%	96 18.8%

したくても 出来ない	その他	参加したい と思わない	非該当	不明	合計
10 3.6%	18 6.4%	8 2.9%	(301)	22 8.6%	257 100.0%
9 5.6%	3 1.9%	5 3.1%	(254)	24 9.4%	254 100.0%
4 5.6%	1 1.4%	1 1.4%	(2)	0 0.0%	1 100.0%
23 4.5%	4 0.8%	14 2.7%	(557)	46 9.0%	512 100.0%

表 8 4 年齢別 参加したい活動

	お金が かから ない	一人でも できる	移動が 不便 ではない	初心者でも 楽しめる	参加が 自由	年齢に関 係なく楽 しめる	人間関係が わずらわし くない
55～64 歳	21 7.5%	23 8.2%	11 3.9%	36 12.9%	77 27.5%	20 7.1%	57 20.4%
65～74 歳	11 6.9%	20 12.5%	7 4.4%	15 9.4%	31 19.4%	22 13.8%	24 15.0%
75 歳以上	6 8.3%	9 12.5%	6 8.3%	4 5.6%	4 5.6%	6 8.3%	15 20.8%
合計	38 7.4%	52 10.2%	24 4.7%	55 10.7%	112 21.9%	48 9.4%	96 18.8%

したくても 出来ない	その他	参加したい と思わない	非該当	不明	合計
10 3.6%	18 6.4%	8 2.9%	(237)	17 6.1%	280 100.0%
9 5.6%	3 1.9%	5 3.1%	(224)	13 8.1%	160 100.0%
4 5.6%	1 1.4%	1 1.4%	(96)	16 22.2%	72 100.0%
23 4.5%	4 0.8%	14 2.7%	(557)	46 9.0%	512 100.0%

(9) 社会活動などを活発に行うために必要な条件（3つ選択：問37）

活動を活発に行うための条件は多岐にわたっている。「一緒に参加する仲間がいる」40.3%（回答率、以下同じ）、「会費、受講料などの経済的負担が少ない」37.1%、「時間的な融通がきくこと」33.5%、「自分の家の近所で活動できる」32.1%、「活動のための施設や場所が確保されていること」27.4%、「家族の理解があること」19.3%などが、2割以上のひとが挙げた理由である。

社会活動に必要なものについて、女性の方が多い割合を示したものは、「家族の理解」であり、男性と12.8ポイントの差、次いで、「近所で活動できる」では、12.5ポイントの差がみられた。「経済的負担が少ない」においても、女性の方が8.3ポイント高い割合を示している。男性の方に高い割合がみられたのは、「地域住民の理解」で、8.5ポイント、「場所が確保されている」で、7.8ポイント、「技術・技能が生かせる」では7.1ポイントであった。女性の方が、自分をとりまく家庭や身近な周囲の条件を重視するのに対し、男性は個人や全体（地域社会）の条件を重視していると読みとれる。全体として、男女間の差が確認された項目であった。

年齢別にみると、「情報の提供」「時間的な融通」が「54～64歳」で高い傾向にあることは、有業者の割合が多いことが影響していると考えられる。「75歳以上」において、「場所の確保」が減少しているといった点は、様々な活動を通して、活動場所に対する不満はないといったことも考えられるが、団体に参加し何か活動をするといったよりも、個人での活動に生きがいを求めるように考え方がシフトしているのではないかと考えられる。

いずれにしても、活動の条件としては、活動者の主体的要件（「技術・技能が生かせる」など）は大きくなく、いわゆる活動の環境整備（場所、費用、情報、仲間、時間）が主であるので、改善の余地は大きいといえる。

表 8 5 性別 社会活動に必要なもの

	経済的負担が少ない	場所が確保されている	近所で活動できる	参加する仲間がいる	技術・技能が生かせる	情報の提供	時間的な融通	家族の理解	行政からの財政的な補助
男性	185 33.2%	174 31.2%	146 26.2%	224 40.1%	84 15.1%	64 11.5%	196 35.1%	73 13.1%	61 10.9%
女性	211 41.5%	119 23.4%	197 38.7%	206 40.5%	41 8.1%	55 10.8%	161 31.6%	132 25.9%	27 5.3%
不明	1 33.3%	0 .0%	1 33.3%	1 33.3%	0 .0%	0 .0%	1 33.3%	1 33.3%	0 .0%
合計	397 37.1%	293 27.4%	344 32.1%	431 40.3%	125 11.7%	119 11.1%	358 33.5%	206 19.3%	88 8.2%

地域住民 の理解	専門家が いる	自治体など 団体として 活動	特になし	不明	合計
66 11.8%	59 10.6%	109 19.5%	138 24.7%	95 17.0%	558 100.0
17 3.3%	43 8.4%	63 12.4%	146 28.7%	108 21.2%	509 100.0
0 .0%	0 .0%	1 33.3%	0 .0%	3 100.0%	3 100.0
83 7.8%	102 9.5%	173 16.2%	284 26.5%	206 206%	1070 100.0%

表 8 6 年齢別 社会活動に必要なもの

	経済的負 担が少な い	場所が確保 されている	近所で活 動できる	参加する 仲間がい る	技術・技能 が生かせ る	情報の 提供	時間的な 融通
55～64歳	200 38.8%	153 29.7%	158 30.6%	199 38.6%	70 13.6%	74 14.3%	207 40.1%
65～74歳	142 36.9%	111 28.8%	131 34.0%	162 42.1%	36 9.4%	32 8.3%	114 29.6%
75歳以上	55 32.5%	29 17.2%	55 32.5%	70 41.4%	19 11.2%	13 7.7%	37 21.9%
合計	397	293	344	431	125	119	358

家族の 理解	行政から の財政的 な補助	地域住民 の理解	専門家が いる	自治体な ど団体と して活動	特になし	不明	合計
107 20.7%	45 8.7%	38 7.4%	52 10.1%	72 14.0%	123 23.8%	50 9.7%	516 100.0
70 18.2%	27 7.0%	33 8.6%	38 9.9%	71 18.4%	100 26.0%	87 22.6%	385 100.0
29 17.2%	16 9.5%	12 7.1%	12 7.1%	30 17.8%	61 36.1%	69 40.8%	169 100.0
206	88	83	102	173	284	206	1070

(10) 参加してみたい活動(3つ選択：問38)：活動意向は高い

新たな活動への参加希望者は、現在参加している人(5割強)を含めて、9割を超えている。

参加したい活動の内容は、全体では、「健康・スポーツ」(41.6%：回答者全体に占める割合＝回答率、以下同じ)、「生産・就業の場」(28.5%)の2つが約3割かそれを超えて、際立っている。次いで「趣味」(22.6%)「町内会、老人クラブなど地域を枠組みとした団体の活動」(20.5%)「生活環境改善活動」(17.6%)が続いている。これら以外は、回答率が1割以下である。健康やスポーツ、趣味の活動への参加希望が高いのは、すでに見た「現在参加している活動」と同じ傾向である。ただ、「生産・就業の場」は、現在活動している人は8%にすぎないが、希望者は3割弱にも達している。特に、一般就労の有職率が低い女性で希望が高い(女性33%、男性25%)。

また、「町内会、老人クラブなど地域を枠組みとした団体の活動」や「生活環境改善活動」など、どちらかと言えば**地域に密着した活動への希望が高い**という特徴がある。

性別では、全般的に男性の方がやや回答率が高い傾向にある。(一人あたりの回答件数、男性1.7、女性1.6)男女間における大きな差がみられたもので、男性が5ポイント以上高いのは、「健康・スポーツ」、「生活環境改善活動」「安全管理活動」「町内会、老人クラブなど地域を枠組みとした団体の活動」の4つである。同じく、女性が高いのは「趣味」と、あと一つは、上に見た、「生産・就業活動」である。

年齢とともに「地域を枠組みとした活動」が増加する傾向がある。これは、移動手段が影響しているのか、もしくは長年の活動を通して気心した人たちが地域の中に備わっており、それを保持するためなのか。「健康・スポーツ」「生産・就業」は、「75歳以上」において割合が大幅に減る傾向にある。

「健康・スポーツ」が「65～74歳」で最も高いのは、退職後、比較的元気な状態にあるときに、「老化」への対抗(アンチ・エイジング)意識が強まるものと思われる。また、「高齢者支援団体の活動」が「65～74歳」において高い割合を示しているが、これも、「老いや老後」へ関心や実感が強まる年齢であるのと、心身面や、時間や生活などの物理的条件の面でも、職業的工作から解放されて若干余裕があるということによるものと思われる。

表87 性別 参加したい活動

	趣味	健康・スポーツ	生産・就業	教育関連・文化啓発活動	生活環境改善活動	安全管理活動	高齢者の支援団体の活動	子育て支援団体の活動	地域を枠組みとした活動
男性	93 16.7%	246 44.1%	137 24.6%	58 10.4%	133 23.8%	79 14.2%	40 7.2%	8 1.4%	127 22.8%
女性	149 29.3%	198 38.9%	168 33.0%	32 6.3%	54 10.6%	17 3.3%	56 11.0%	40 7.9%	91 17.9%
不明	0 .0%	1 33.3%	0 .0%	0 .0%	1 33.3%	0 .0%	0 .0%	0 .0%	1 33.3%
合計	242 22.6%	445 41.6%	305 28.5%	90 8.4%	188 17.6%	96 9.0%	96 9.0%	48 4.5%	219 20.5%

その他	参加したいものはない	合計
3 .5%	17 3.0%	558 100.0
5 1.0%	13 2.6%	509 100.0
0 .0%	0 .0%	3 100.0
8 0.7%	30 2.8%	1070 100.0%

表 8 8 年齢別 参加したい活動

	趣味	健康・スポーツ	生産・就業	教育関連・文化啓発活動	生活環境改善活動	安全管理活動	高齢者の支援団体の活動	子育て支援団体の活動
55～64歳	137 26.6%	218 42.2%	182 35.3%	50 9.7%	98 19.0%	46 8.9%	43 8.3%	34 6.6%
65～74歳	75 19.5%	176 45.7%	102 26.5%	25 6.5%	66 17.1%	36 9.4%	43 11.2%	12 3.1%
75歳以上	30 17.8%	51 30.2%	21 12.4%	15 8.9%	24 14.2%	14 8.3%	10 5.9%	2 1.2%
合計	242	445	305	90	188	96	96	48

地域を枠組みとした活動	その他	参加したいものはない	合計
76 14.7%	0 .0%	13 2.5%	516
95 24.7%	5 1.3%	12 3.1%	385
48 28.4%	3 1.8%	5 3.0%	169
219	8	30	1070

この前期老年層が、やはり一定の安定期で、高齢者支援への関心が強くなるのではないかと考えられる。また、「生産・就業」や「生活環境改善活動」など、比較的体力を要する活動が、加齢とともに参加希望率が低下するのは、やはり体力の問題が挙げられる。

しかし、後期高齢期まで、高齢者の「生活の質」を高める上で重要な要素である「趣味」までもが、同じような傾向にあるのは、活動そのもの工夫が足らないのではなかろうか。

いずれにしても、子育てや、高齢者支援などの、いわゆるボランティア型活動への参加希望は、あまり高くないが、全体的には活動希望意向は高いといえる。

XⅢ震災時のこと

今回の調査は、震災後ということもあり、震災時における高齢者の行動や活動への参加についても、社会活動の一場面として、調査を行った。

(1) 3月11日の地震発生時における近所への安否確認（問39）：高い確認行動

地震発生後の3月11日中に、近所の安否確認を行った人の割合は、62.5%であった。極めて高い割合といえる。

震災直後に安否確認したかという点について、男女間における大きな差は見られなかったが、男性よりも女性の方が4.9ポイント高い割合を示している。これは、近所との関係を重視する女性の傾向が影響したのか、または、震災発生時間等を考えた場合、就業状況等が影響していると考えられる。

震災当日、安否確認をしたかについて、若干ではあるが年齢層が上がるにつれて安否確認を「した」割合が**増えている**。これは就業状況との関連（地震発生時、地域に不在）から考えられる。

表 8 9 性別 安否確認したか （問 3 9）

	した	しなかった	無回答	合計
男性	336 60.1%	211 37.7%	12 2.1%	559 100.0%
女性	330 65.0%	164 32.3%	14 2.8%	508 100.0%
無回答	3 100.0%	0 .0%	0 .0%	3 100.0%
合計	669 62.5%	375 35.0%	26 2.4%	1070 100.0%

表 9 0 年齢別 安否確認したか (問 3 9)

	した	しなかった	無回答	合計
55～64 歳	313 60.5%	198 38.3%	6 1.2%	517 100.0%
65～74 歳	245 63.8%	128 33.3%	11 2.9%	384 100.0%
75 歳以上	111 65.7%	49 29.0%	9 5.3%	169 100.0%
合計	669 62.5%	375 35.0%	26 2.4%	1070 100.0%

(2) 3月11日の地震発生時における近所からの安否確認 (問40)

地震発生後の3月11日中に、近所の住民から安否確認をされた人の割合は、53.4%であった。

性別と震災直後に安否確認されたかという点についてみると、女性の方が 11.4 ポイント高い割合を示している。日頃の近所付き合いも関係しているかもしれないが、自分が近隣に対して安否確認行動を行った場合と同じで、平日の午後に「在宅」していた確率が女性の方が高いということも影響しているものと思われる。

また、年齢別で見ると、年齢層が高いほうが安否確認を「された」割合が多い。これも「安否確認をした」と同様に、地震発生時、地域にいたかいないかが影響していると考えられるが、やはりなんと言っても大きいのは、「要介護」状況である。要介護を含む要支援 2 以上の人は、前期老年層では 10 人 (2.8% : 回答不明を除く) であるが、後期老年層では 16 人 (9.9%) である。年齢が高い方が、震災時の、より安否確認や支援の対象になるのは、当然のことといえる。

いずれにしても、中高齢者の多くは、本調査対象地でも、震災時に、近隣で、安否確認したり、されたり、相互に確認行動を行っていたことがわかる。

表 9 1 性別と安否確認されたかのクロス表 (問 4 0)

	された	されなかった	無回答	合計
男性	268 47.9%	274 49.0%	17 3.0%	559 100.0%
女性	301 59.3%	194 38.2%	13 2.6%	508 100.0%
無回答	2 66.7%	1 33.3%	0 .0%	3 100.0%
合計	571 53.4%	469 43.8%	30 2.8%	1070 100.0%

表 9 2 年齢と安否確認されたかのクロス表 (問 4 0)

	された	されなかった	無回答	合計
55～64 歳	244 47.2%	267 51.6%	6 1.2%	517 100.0%
65～74 歳	222 57.8%	150 39.1%	12 3.1%	384 100.0%
75 歳以上	105 62.1%	52 30.8%	12 7.1%	169 100.0%
合計	571 53.4%	469 43.8%	30 2.8%	1070 100.0%

(3) 自治会における震災対応の活動への参加(複数回答)

自治会での震災直後の活動には、「参加しなかった」が最も多く、29.9%であった。調査対象地域によって、地震等の影響、被災状況は異なるのが、この回答には、「何をしていたのか分からなく参加しなかった」「活動は無かった」(26.7%) も含まれている可能性もある。大まかに言えば、これらを除いた、約45%の人が活動に参加したということである。

参加したもので高かったのが、「他の地区に対する義捐金・募金活動」28.4%、「安否確認」(18.4%)、「支援物資の収集」(17.2%) などであった。

表 9 3 性別 震災対応の活動のクロス表：複数回答 (問 4 1)

	避難所の 設置	安否確認	情報提供	募金活動	支援物資 の収集	炊き出し	活動なし	分からな かった
男性	19 3.5%	122 22.6%	78 14.5%	157 29.1%	82 15.2%	14 2.6%	140 26.0%	64 11.9%
女性	8 1.7%	88 18.4%	31 6.5%	132 27.6%	82 17.2%	21 4.4%	132 27.6%	71 14.9%
合計	27 2.7%	210 20.6%	109 10.7%	289 28.4%	164 16.1%	35 3.4%	272 26.7%	135 13.3%

参加 しない	合計
165 30.6%	539
139 29.1%	478
304 29.9%	1017 100.0%

震災対応の活動について、男女間において大きな差が見られたのは「情報提供」であり、女性よりも男性の方が 8.0 ポイント高い割合となった。情報入手経路として就業状況・自治会活動への参加等が関連しているかもしれない。

震災時、年齢と震災対応の活動において、「分からなかった」が「75 歳以上」において割合が低いのにに対し、若干ではあるが「参加しない」の割合が「75 歳以上」において高いという点が気になるところである。要するに「75 歳以上」において、活動内容は知っているが、参加はしないという選択をしている人がいる可能性がある。活動内容としては、年齢による大きな差は全般的には確認されないが、「安否確認」「募金活動」において「65～74 歳以上」で割合が多く、この年齢層が自治会活動において動きやすい条件下、ポジションにあると考えられる。

表 9 4 年齢別 震災対応活動のクロス表 (問 4 1)

	避難所の 設置	安否確認	情報提供	募金活動	支援物資 の収集	炊き出し	活動なし	分から なかった
55～64 歳	10 2.0%	85 16.9%	55 11.0%	126 25.1%	73 14.5%	16 3.2%	132 26.3%	75 14.9%
65～74 歳	14 3.8%	92 25.1%	42 11.4%	121 33.0%	66 18.0%	17 4.6%	106 28.9%	48 13.1%
75 歳以上	3 2.0%	34 22.5%	12 7.9%	44 29.1%	28 18.5%	2 1.3%	34 22.5%	12 7.9%
合計	27	211	109	291	167	35	272	135

参加 しない	合計
143 28.5%	502
111 30.2%	367
50 33.1%	151
304	1020

（４）個人的な震災対応の活動（複数回答）（問42）

個人的になんらかの震災対応の活動を行った人は83.2%（891人）である。その活動として、最も多かったのが「義捐金をおさめた」61.2%（回答者全体に占める割合：回答率50.9%、以下同じ）であった。次いで「親戚や知り合いに、物資を送った」44.7%（同37.2%）、「親戚や知り合いに御見舞金を渡した」33.6%（27.9%）、「不特定の人に支援物資を送った」32.7%（27.2%）であった。団体での活動を遙かに超える活動を行っていたことがわかる。

個人的に行った活動について、大きな差が見られたのは「御見舞金」であり、男性よりも女性の方が8.0ポイント高い。

年齢と個人的に行った活動との関係には、ばらつきが見られ、一定の傾向はない。ただ、年齢による大きな差が見られたのは「義捐金」であり、「75歳以上」では、「54～64歳」に比べ13.6ポイント、「65～74歳」に比べ17.9ポイント、低い割合となっている。それだけ、個人の小遣いなどは、後期高齢者になると厳しいのであろう。

表 9 5 性別 個人的に行った活動のクロス表（問 4 2）

	義捐金	物資 (親戚・知人)	お見舞金	物資 (不特定)	避難者の 受け入れ	ボランティア活動	個人的な 物的支援
男性	290 61.3%	199 42.1%	141 29.8%	150 31.7%	8 1.7%	10 2.1%	8 1.7%
女性	255 61.0%	199 47.6%	158 37.8%	141 33.7%	15 3.6%	9 2.2%	4 1.0%
合計	545 61.2%	398 44.7%	299 33.6%	291 32.7%	23 2.6%	19 2.1%	12 1.3%

安否確認 ・激励	その他	何もできない、 しなかった	合計
5 1.1%	16 3.4%	9 1.9%	473 100.0%
3 .7%	11 2.6%	5 1.2%	418 100.0%
8 0.9%	27 3.0%	14 1.6%	891 100.0%

表 9 6 年齢別 個人的に行った活動のクロス表 (問 4 2)

	義捐金	物資 (親戚・知人)	お見舞金	物資 (不特定)	避難者の 受け入れ	個人的な 物的支援	ボランティア 活動
55～64 歳	274 61.6%	215 48.3%	134 30.1%	133 29.9%	13 2.9%	5 1.1%	13 2.9%
65～74 歳	213 65.9%	137 42.4%	119 36.8%	117 36.2%	8 2.5%	5 1.5%	6 1.9%
75 歳以上	60 48.0%	48 38.4%	46 36.8%	42 33.6%	2 1.6%	3 2.4%	0 .0%
合計	547	400	299	292	23	13	19

安否確認 ・激励	その他	何もできない、 しなかった	合計
6 1.3%	15 3.4%	7 1.6%	445 100.0%
2 .6%	8 2.5%	4 1.2%	323 100.0%
0 .0%	5 4.0%	3 2.4%	125 100.0%
8	28	14	893

(5) 地震が起きたときに頼りになる人等

地震が起きた時に「どこが一番頼りになったか」で、最も多かったのは「家族」で63.2%、次いで「隣近所」が15.7%であった。他は1割にも満たない。一つだけということになると、一人暮らし等を除けば、やはり家族ということであろう。

震災時、頼りになる存在としては、「家族」において、女性の方が男性よりも 8.9 ポイント高い割合となった。一方で、男性の場合は、「隣近所」において 4.9 ポイント多い割合を示しており、若干ではあるが、「町内会・自治会」において 2.6 ポイント、行政 2.6 ポイント多い割合を示しており、普段の自治会等（地域）へのかかわり方の違いや、地域や自治会などについての考え方・意識の違いによるものと思われる。

震災時、頼りになる存在について、「75 歳以上」で「家族」の割合が低くなっている。その一方で、「親戚」、若干ではあるが「隣近所」に対する割合が増加している。後期老年層になると家族の力自体が弱まっていることが背景にあるものと思われる。

表 9 7 性別 頼りになる存在のクロス表 (問 4 3)

	家族	親戚	友達	隣近所	町内会・自治会	行政	その他	頼りになる と思った人 はいない
男性	331 59.2%	34 6.1%	15 2.7%	100 17.9%	28 5.0%	19 3.4%	7 1.3%	2 .4%
女性	346 68.1%	40 7.9%	18 3.5%	66 13.0%	12 2.4%	4 .8%	3 .6%	0 .0%
無回答	0 .0%	1 33.3%	0 .0%	2 66.7%	0 .0%	0 .0%	0 .0%	0 .0%
合計	677 63.3%	75 7.0%	33 3.1%	168 15.7%	40 3.7%	23 2.1%	10 .9%	2 .2%

自分	会社	無回答	合計
4 .7%	4 .7%	15 2.7%	559 100.0%
1 .2%	2 .4%	16 3.1%	508 100.0%
0 .0%	0 .0%	0 .0%	3 100.0%
5 .5%	6 .6%	31 2.9%	1070 100.0%

表 9 8 年齢別 頼りになる存在のクロス表 (問 4 3)

	家族	親戚	友達	隣近所	町内会・自治会	行政	その他	頼りになる と思った人 はいない
55～64 歳	344 66.7%	27 5.2%	20 3.9%	77 14.9%	14 2.7%	12 2.3%	3 .6%	1 .2%
65～74 歳	240 62.3%	30 7.8%	9 2.3%	60 15.6%	20 5.2%	8 2.1%	6 1.6%	0 .0%
75 歳以上	93 55.0%	18 10.7%	4 2.4%	31 18.3%	6 3.6%	3 1.8%	1 .6%	1 .6%
合計	677 63.3%	75 7.0%	33 3.1%	168 15.7%	40 3.7%	23 2.1%	10 .9%	2 .2%

自分	会社	無回答	合計
2 .4%	6 1.2%	10 1.9%	516 100.0%
2 .5%	0 .0%	10 2.6%	385 100.0%
1 .6%	0 .0%	11 6.5%	169 100.0%
5 .5%	6 .6%	31 2.9%	1070 100.0%

(6) ボランティア活動への参加 (問44)

今回の震災において、ボランティア活動の参加について聞いたところ「しなかった」人が、82.4%であった。

ボランティア活動について、「ボランティア活動をした」において、男性の方が女性よりも 5.1 ポイント高い割合となった。

ボランティア活動の関連について、「54～64 歳」「65～74 歳」では差が見られないが、「75 歳以上」では他年齢層を比べると 7.5 ポイント低い割合となっている。体力との関係、情報共有の状況とも関連しているだろう。

表 9 9 性別 ボランティア活動のクロス表 (問 4 4)

	した	しなかった	無回答	合計
男性	83 14.9%	452 81.0%	23 4.1%	558 100.0%
女性	50 9.8%	428 84.1%	31 6.1%	509 100.0%
無回答	0 .0%	3 100.0%	0 .0%	3 100.0%
合計	133 12.4%	883 82.5%	54 5.0%	1070 100.0%

表 100 年齢別 ボランティア活動のクロス表 (問 4 4)

	した	しなかった	無回答	合計
55～64 歳	71 13.8%	431 83.5%	14 2.7%	516 100.0%
65～74 歳	53 13.8%	309 80.3%	23 6.0%	385 100.0%
75 歳以上	9 5.3%	143 84.6%	17 10.1%	169 100.0%
合計	133 12.4%	883 82.5%	54 5.0%	1070 100.0%

(7) ボランティア活動の内容 (複数回答)

行ったボランティア活動の内容で一番多かったのは、「物資の運搬・配布等」で48.1%、次いで多かったのが「食事の世話」で24.0%、「瓦礫撤去ボランティア」が17.8%であった。

ボランティア活動の内容について、「食事の世話」において 25.8 ポイント、「傾聴」においては、6.4 ポイント、男性よりも女性の方が高い割合となり、「瓦礫撤去」において女性より男性の方が 14.7 ポイント、「引っ越し作業」において 11.0 ポイント高い割合となった。普段の家事役割の状況や体力とも関係していると考えられる。

年齢とボランティア活動の内容の関連をみると、「瓦礫撤去」において、「65～74 歳」「75 歳以上」と年齢層が高いほうが参加している健康がみられる。また、「ボランティアセンタースタッフ」においても、年齢層が高いほうが参加している傾向がみられる。一方で、「物資の運搬・配布」においては、年齢層が低い方が参加している傾向がみられる。ただ、全体的にサンプルが少ないことから、傾向の読みとりは難しい。

表 101 性別 ボランティア活動のクロス表 (問 4 5)

	傾聴	瓦礫撤去	ボラセン スタッフ	引越し作業	付き添い	食事の世話	物資運搬 ・配布
男性	7 8.5%	19 23.2%	3 3.7%	9 11.0%	5 6.1%	12 14.6%	43 52.4%
女性	7 14.9%	4 8.5%	1 2.1%	0 .0%	4 8.5%	19 40.4%	19 40.4%
合計	14 10.8%	23 17.8%	4 3.1%	9 7.0%	9 7.0%	31 24.0%	62 48.1%

家屋の掃除	避難者の受け入れ	避難所・診療所などの手伝い	その他	合計
2 2.4%	1 1.2%	4 4.9%	8 9.8%	82 100.0%
0 .0%	1 2.1%	3 6.4%	6 12.8%	47 100.0%
2 1.6%	2 1.6%	7 5.4%	14 10.9%	129 100.0%

表 102 年齢別 ボランティア活動のクロス表 (問 4 5)

	傾聴	瓦礫撤去	ボラセン スタッフ	引越し作 業	付き添い	食事の 世話	物資運搬 ・配布
54～64 歳	9 12.7%	11 15.5%	1 1.4%	4 5.6%	5 7.0%	16 22.5%	39 54.9%
65～74 歳	4 8.2%	10 20.4%	2 4.1%	4 8.2%	4 8.2%	13 26.5%	20 40.8%
75 歳以上	1 11.1%	2 22.2%	1 11.1%	1 11.1%	0 .0%	2 22.2%	3 33.3%
合計	14	23	4	9	9	31	62

家屋の掃 除	避難者の 受け入れ	避難所・診療所 などの手伝い	その他 1	合計
1 1.4%	0 .0%	4 5.6%	11 15.5%	71 100.0%
1 2.0%	2 4.1%	3 6.1%	3 6.1%	49 100.0%
0 .0%	0 .0%	0 .0%	0 .0%	9 100.0%
2	2	7	14	129